

「歩くまち・京都」推進会議の役割

「歩くまち・京都」総合交通戦略

数値目標: 非自動車分担率 72%→80%以上

戦略の着実な推進により基本理念を具現化

シンボルプロジェクトをはじめ94の実施プロジェクトの推進

進捗状況を確認し、施策
の効果検証を行う

戦略の見直しを
幅広い観点から確認

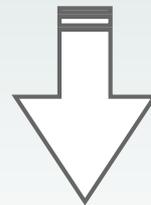
人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現

「歩くまち・京都」総合交通戦略の実施プロジェクトの推進

基本理念

自動車交通の制限を含めた様々な抑制策等を通じてクルマを重視したまちと暮らしを、「歩く」ことを中心としたまちと暮らしに転換していく。

京都議定書誕生の地であり、環境モデル都市でもある京都が日本を代表する「国際文化観光都市」であると同時に、まちの賑わいを生み出す都市であり続けることを目指す。



脱「クルマ中心」社会を実現するためには、戦略の理念を共有し、行政、事業者、市民の皆様が一体となって、94の実施プロジェクトの着実な推進を図る。

議題

(1) 「歩くまち・京都」総合交通戦略に掲げる 94の実施プロジェクトの進捗状況

94の実施プロジェクトの進捗状況

分野	施策分類	進捗状況			
		企画構想 段階	事業 推進中	事業が ほぼ達成	合計
分野1 「既存公共交通」の取組	(1)公共交通利便性向上施策	1	45	9	55
分野2 「まちづくり」の取組	(2)「歩くまち・京都」を支える 歩行空間の充実	0	3	0	3
	(3)未来の公共交通の充実	0	2	1	3
	(4)自動車交通の効率化と適正化	0	8	0	8
	(5)パーソナルモビリティの転換	0	3	0	3
分野3 「ライフスタイル」の取組	(6)「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発	0	1	0	1
	(7)交通行動スタイルの見直しを促す コミュニケーション施策 (モビリティ・マネジメント施策)	0	20	1	21
合計		1 (1%)	82 (87%)	11 (12%)	94 (100%)

詳しくは資料4をご覧ください

追加された6プロジェクトの進捗状況

□ 昨年度追加された6プロジェクトは、いずれも「事業推進中」

施策名		進捗状況		
		企画構想段階	事業推進中	事業がほぼ達成
分野1 「既存公共交通」の取組み				
8	市バスの均一運賃区間の拡大		➔	
17	地域・事業者の協力によるバス待ち空間「バスの駅」や接近表示器等の整備		➔	
27	駅の魅力向上と賑わい創出にもつなげる地下鉄での駅ナカビジネスなどの積極的な展開の実施		➔	
29	利用者の利便性向上を図るための鉄道施設の整備(例:JR嵯峨野線 京都・丹波口駅間新駅、阪急京都線(洛西口駅付近)の連続立体交差化)など		➔	
38	事故防止の取組や地下鉄烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置をめざした自動列車運転装置搭載の新型の車両導入着手など、市バス・地下鉄の安全性の更なる向上		➔	
分野2 「まちづくり」の取組み				
57	役割を終え、老朽化した横断歩道橋の撤去による歩行者優先の道路づくり		➔	

議題

(2) 平成29年度の「歩くまち・京都」の 主な取組について

取組概要

<「まちづくり」の取組>

- ・自動運転技術の社会実装に向けて、検討会議を開催し、市民向けシンポジウム及び自動運転可能な電動小型低速車の体験乗車イベントを開催
- ・安心・安全な東大路歩行空間創出事業では、歩道の横断勾配の改善や電柱等の移設と集約に係る工事に着手

<「既存公共交通」の取組>

- ・バス路線充実等の社会実験に対する支援として、京阪バス「鏡山循環」及び「くるり山科」の増便に係る社会実験を支援
- ・阪急西院駅の既存の西改札口のバリアフリー化等、交通バリアフリーの推進

<「ライフスタイル」の取組>

- ・地域と連携したMMを2箇所(左京区, 西京区)で実施
- ・「歩くまち・京都」学習実践校(5小学校)で学校MMを推進
- ・NPO法人「歩くまち・京都」フォーラムと連携したMMの推進

プロジェクト

【未来の公共交通の充実】

未来の公共交通の充実について、どのような公共交通が将来の京都市に必要かと検討するための体制を整え、それぞれの地域特性を踏まえた新しい公共交通の実現に向けた検討を行います。

概要

背景

近年、自動運転に関する技術進歩は目覚ましく、国においても、未来投資戦略2017に「高度な自動走行の実現に向けた制度整備の加速」が掲げられるなど、今後、自動運転の普及が急速に進んでいくことが見込まれる。

内容

自動運転の活用による市政課題の解決(次頁参照)や新たなまちの魅力を生み出す可能性について、テーマを絞って議論を進めるとともに、具体的な事業構想を持つ事業者等と連携しながら、検討や検証等を行う。

目標

社会実装に向けたプロジェクトを進めるとともに、平成31年度に京都における自動運転の活用のあり方に関する提言をとりまとめる。9

自動運転が実用化された京都のまち（イメージ）



平成29年度の取組

第1回自動運転の社会実装に向けた検討会議の開催

今後の検討会議の方向性や自動運転技術の一般的な効果・課題について意見交換を行ったうえ、自動運転の活用による市政課題の解決や新たなまちの魅力を生み出す可能性について、「観光・交通」・「中山間地域」の議題を中心とした議論に着手した。

【主な出席者】

- ・ 塚口博司（立命館大学工学部 特任教授）
- ・ 長上深雪（龍谷大学社会学部 教授）
- ・ 蓮花一己（帝塚山大学学長 心理学部教授）
- ・ 近畿運輸局、京都国道事務所、京都府警察本部交通部など
- ・ 佐藤健哉（同志社大学モビリティ研究センター 教授）
- ・ 松島格也（京都大学大学院工学研究科 准教授）
- ・ 石倉理有（堀場製作所産学官連携推進室マネージャー）

市民向けシンポジウム及び自動運転可能な電動小型低速車の体験乗車イベントを開催予定

- 1 シンポジウム～「自動運転が変える京都のまちと暮らし」～（第2回「自動運転の社会実装に向けた検討会議」）
日時：平成30年3月17日（土）13:30～16:00
場所：京都平安ホテル 1階「平安の間」
内容：市民の皆様へ自動運転技術の現状や将来想定される暮らしの変化について、理解を深めていただくための講演やパネルディスカッションを実施
- 2 自動運転可能な電動小型低速車の体験乗車イベント
日時：平成30年3月18日（日）13:00～17:00
場所：岡崎公園周辺～知恩院周辺
内容：幹線道路を通らずに観光地間移動する新たな移動サービスの導入（観光交通と生活交通との分離）を想定し、将来的には自動運転車両に置き換えることも想定しながら、事業の成立可能性や市民の心理的受容性等を確認することを目的として市民の皆様へ電動小型低速車の乗車を体験いただくもの。



【ヤマハ製電動小型低速車】



【テムザック製電動車いす】

プロジェクト

No.56 観光スポットが集中している東大路通において、自動車抑制と歩道拡幅及び無電柱化

概要

●東大路通整備構想（平成24年8月策定）

実現に向けた基本方針

現在の道路幅員の中で、歩行者が安心・安全、そして快適に通行することのできる空間の確保を最優先にして、**車線数の減少等も含めた道路空間の再構成を検討**し、「環境」、「景観」、「地域コミュニティ」、「観光振興」等の視点から「歩いて楽しい東大路」を目指す。

●「車線数の減少を伴う道路空間の再構成(2車線化)」

交通解析の結果、**現在の交通状況で2車線化した場合、「東大路通および周辺道路への交通影響が大きい」**ことが判明



現状では2車線化を実施せず、今後も交通状況等を考慮しながら長期的に検討する

※パークアンドライド等の流入抑制や道路ネットワークの強化に中長期的に取り組む



安心・安全な東大路歩行空間創出事業②

●取組方針

- ・ 引き続き、安心・安全な歩行空間の創出に向けた取組を進める
- ・ **歩道勾配の急な箇所や良好なバス待ち環境が整っていない等の個別の課題に対し、交通影響が少なく効果的な対策を検討・実施する**

●取組内容

※短期・中期の取組は、平成32年度を目標に進める。

	改善の視点	取組項目
短期・中期の取組	歩道環境の改善	取組1: 横断勾配の改善
		取組2: 電柱等の移設と集約
		取組3: 部分的な歩道拡幅
	バス待ち環境の改善	取組4: バス停移設
		取組5: バス待ち空間の確保
	回遊性及び案内誘導の向上による歩行者の分散	取組6: 魅力ある道路整備による誘導促進
		取組7: 案内標識等の充実
継続していく取組		取組8: バス利用環境の改善
		取組9: 自動車交通の最適化(道路空間の再構成)
		取組10: 自転車のルール・マナーの啓発



歩道の横断勾配改善箇所



電柱等の移設箇所

平成29年度の取組

- 今後の取組内容に基づき、歩道の横断勾配の改善や電柱等の移設と集約に係る工事に着手するとともに、東大路通の歩行者を分散させるための回遊性向上に向けた検討を実施。

観光地交通対策の推進

プロジェクト

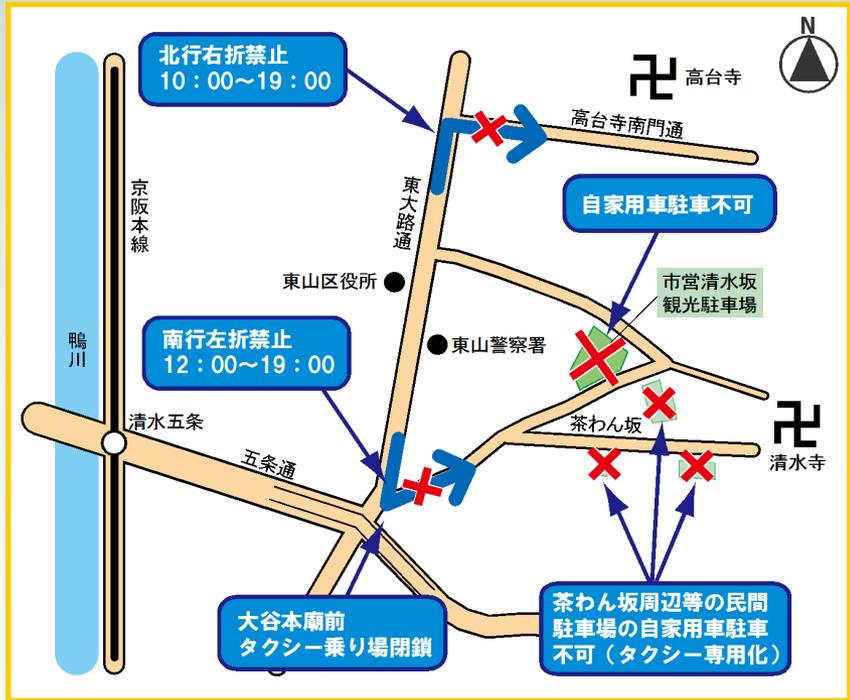
【観光地交通対策】

歩かないと楽しめない京都の魅力を最大限に引き出します。

平成29年度の取組



<嵐山地区>



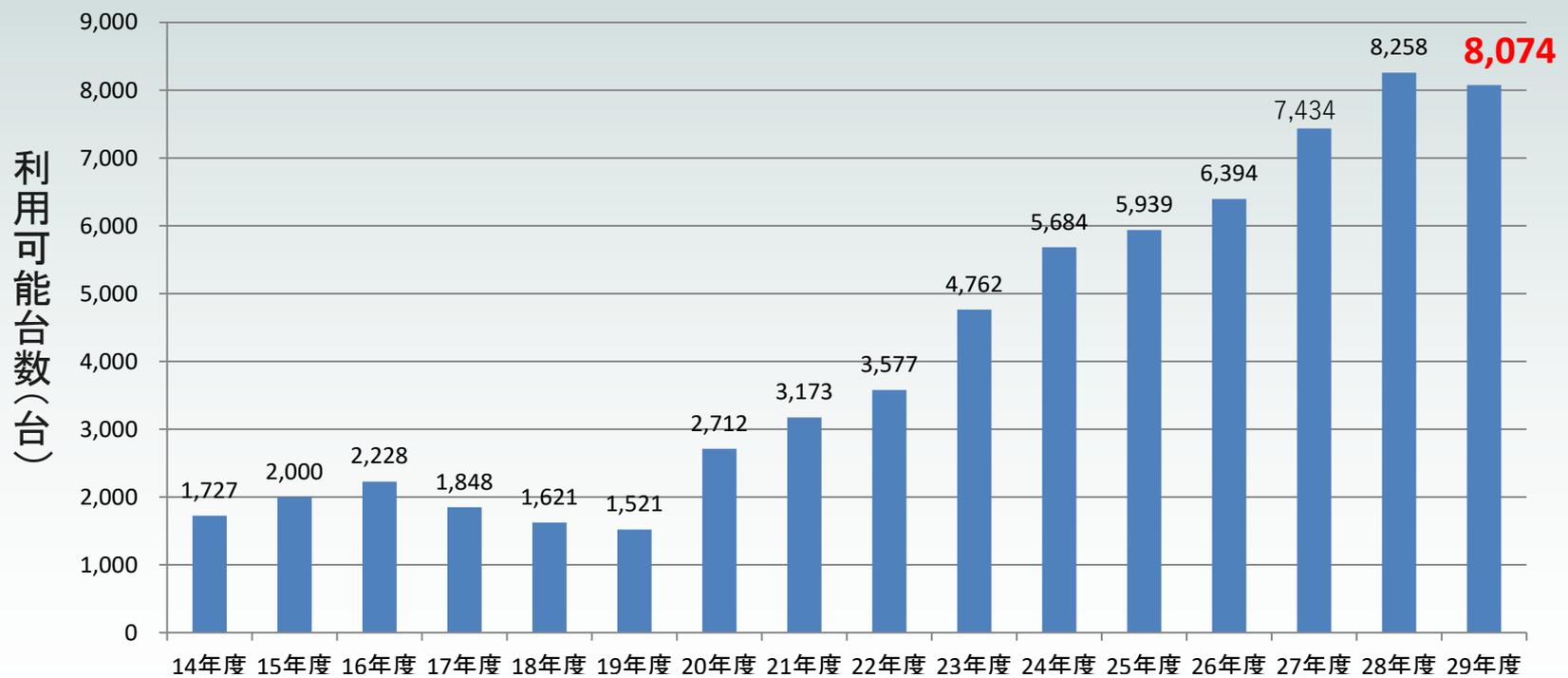
<東山地区>

プロジェクト

No.50 京都市周辺地域でのパークアンドライドの通年実施

No.62 (パークアンドライドの)設置箇所の拡大や通年化 ほか

平成29年度までの実績



※秋の観光シーズンに期間限定で開設する駐車場を含む。

資料:京都市資料

プロジェクト

No.58 四条通での歩道拡幅による公共交通優先と自動車交通の

抑制の取組を内容とするランジットモール化の推進

歩道整備が困難な都心の細街路において、安心してゆとりのある歩行空間を確保するため、路側線の引き直し等による「歩いて楽しいまちなかゾーン」の取組を推進

概要

趣旨

歩道整備が困難な都心の細街路において、安心・安全で快適な歩行空間を確保する。

整備内容

路側線の引き直し(路側帯の拡幅)や自転車通行推奨帯等の路面表示

幹線道路の出入口部のカラー舗装

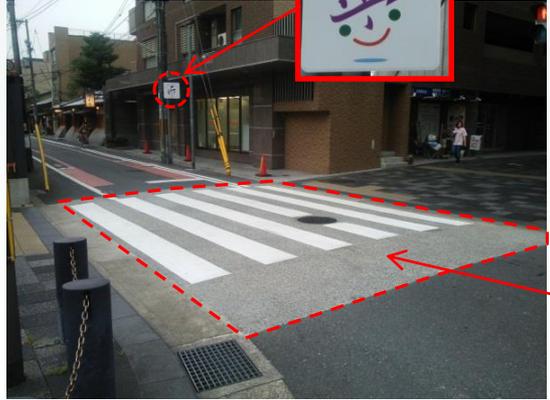
ロゴマーク看板の設置

路側線引き直し

自転車通行
推奨帯等の表示



ロゴマーク看板



カラー舗装

歩いて楽しいまちなかゾーン②

進捗

整備状況

平成28年度以前

【ゾーン③】

一部実施

【ゾーン④(歴史的都心地区)】

完了

【ゾーン⑥】

北側(高辻通以北)

完了

南側(高辻通以南)

着手

平成29年度

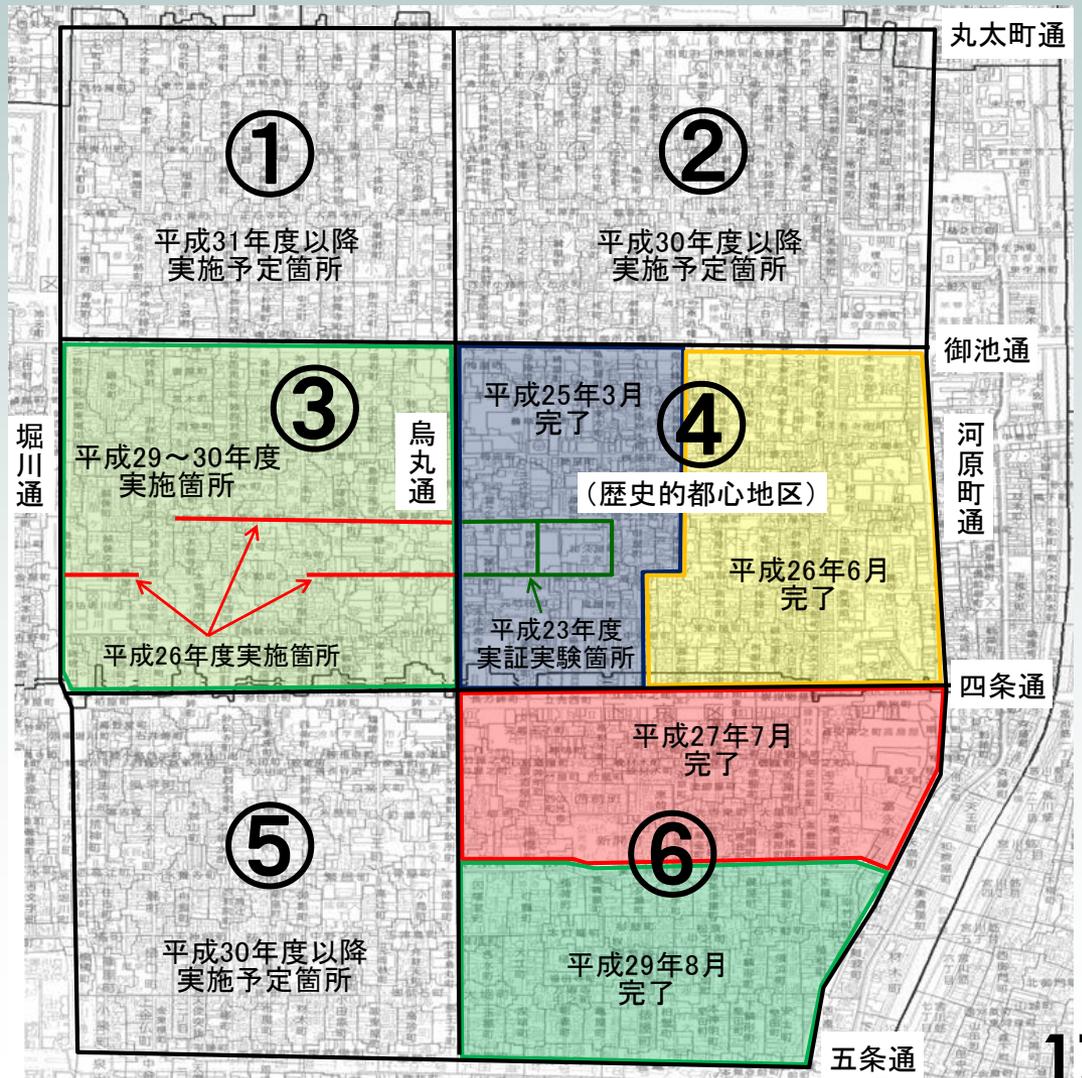
【ゾーン⑥】

完了

【ゾーン③】

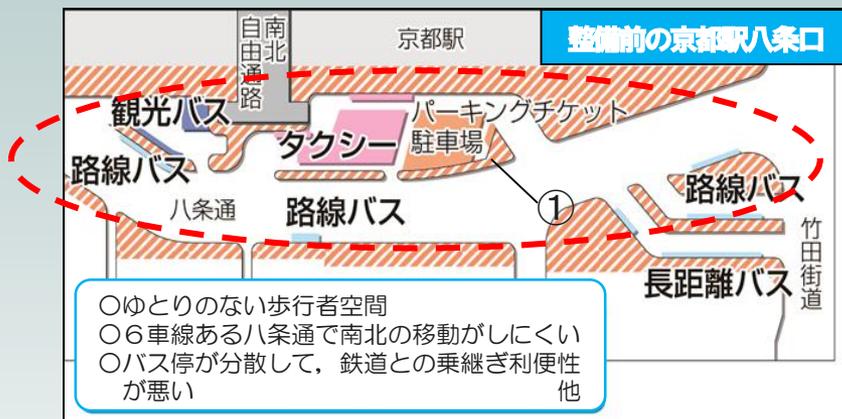
着手

ゾーン対策エリア

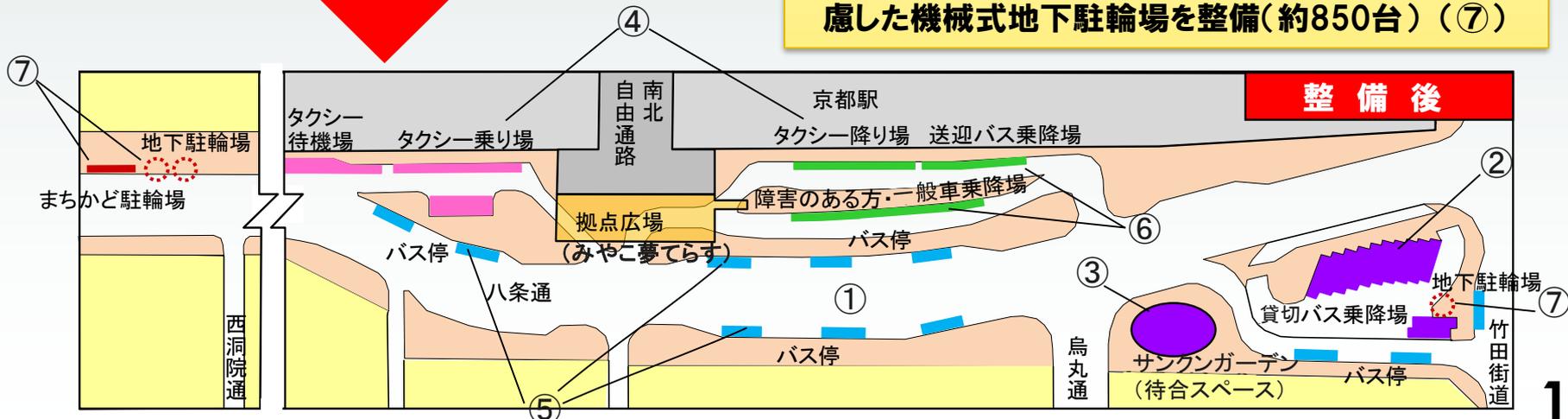
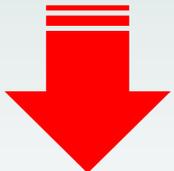


プロジェクト

No.32 駅及び駅周辺の乗継施設の整備・改善



- ・車線減少 (6 → 4車線) (①)
- ・貸切バス乗降場のスペースを拡大 (6→12台) するとともにタクシーと経路を分離 (②)
- ・300人程度の待機スペースを確保 (③)
- ・タクシーの乗り場と降り場を分離 (④)
- ・バス停を駅正面に集約し、乗継利便性を向上 (⑤)
- ・パーキングチケットを廃止し、障害のある方、一般車、ホテル等送迎バスの送迎のための停車スペースを整備 (⑥)
- ・地下空間を有効活用するとともに、景観に配慮した機械式地下駐輪場を整備(約850台) (⑦)



京都駅八条口駅前広場整備②

整備事業完了

タクシー乗り場



貸切バス乗降場



拠点広場（みやこ夢てらす）



サンクンガーデン



<スケジュール>

- ・平成26年11月 駅前広場整備工事着工
- ・平成27年 1月 パーキングチケット駐車場の廃止
- ・平成27年 2月 機械式地下駐輪場供用開始
- ・平成28年 1月 サンクンガーデンの工事着手

- 平成28年 3月 駅正面の拠点広場(みやこ夢てらす)完成
- 平成28年 4月 タクシーショットガン運用開始
- 平成28年12月 駅前広場整備工事完成

平成29年度の取組

【全体】

- タクシー，貸切バス，路線バス，送迎バス，荷捌き車等の交通施設の運用
- 一般車乗降場の周知啓発

【タクシー】

- タクシーショットガンの運用(平成28年4月1日から)
- 指定管理者制度による運用開始(平成29年11月15日から)

【貸切バス】

- 予約制，バスショットガン運用開始(平成29年4月1日から)
- ゲート設備の設置，料金制の開始(平成29年7月1日から)
- 指定管理者制度による運用開始(平成29年11月15日から)



プロジェクト

No.55 地域住民の皆様が生活交通の維持に対する意識を高めて頂くような仕組みづくり

概要

バス利用環境の整備に対する支援

市内全域におけるバスの利便性を向上させるため、バス利用環境を整備する民間バス事業者を支援

【補助対象事業】

- 1 バス停留所上屋
- 2 バス停留所ベンチ
- 3 電照式バス停留所標柱
- 4 バス停留所標識柱の照明機器
- 5 バスロケーションシステムのモニター
- 6 その他市長が必要と認める設備の整備

※ 整備の対象となる設備の構造、規模、性能等について、市バスにおける同様の事例と水準をあわせる。

【補助額】

補助対象経費の5分の4

バス路線充実等の社会実験に対する支援

主に京都市民の日常生活に必要なバス路線を充実させるため、民間バス事業者が本格運行を視野に入れて実施する社会実験を支援

【社会実験の要件】

社会実験の対象となる地域において、「日常生活に必要なものとして充実すべきバス路線である」という合意が形成されていること

【補助対象経費】

- 1 バス利用促進のモビリティ・マネジメントに係る経費〔全額〕
- 2 バス運行計画の作成に係る経費〔補助率5分の4〕
- 3 バス停留所標柱等の地上案内設備やバス車上案内設備の設置・更新等に係る経費〔補助率5分の4〕
- 4 バス車両の調達経費〔全額補助〕

平成29年度の取組

バス待ち環境の整備に対する支援

民間バス事業者6社局から補助申請が出されており、下記のとおり整備中である。

		整備項目					
		上屋	ベンチ	停留所 標識柱	標識柱の 照明機器	バスロケ モニター	その他
設置 行政 区	左京区	6箇所		2箇所			
	中京区			1箇所			
	山科区	1箇所				1箇所	
	右京区	3箇所		3箇所			
	西京区		1箇所	1箇所	33箇所		1箇所
	伏見区	3箇所	6箇所		13箇所		
合 計		13箇所	7箇所	7箇所	46箇所	1箇所	1箇所

バス路線充実等の社会実験に対する支援

平成29年10月1日から、京阪バス「鏡山循環」及び「くるり山科」の増便に係る社会実験を開始した。今後は、本格運行につながるよう、本市としても、引き続き、地域住民やバス事業者の利用促進の取組等（モビリティ・マネジメント）を支援していく。

公共交通ネットワークの連携強化

プロジェクト

No.34 観光客の多様なニーズに対応した、交通事業者共通の企画切符の導入及び広報

No.35 共通運賃や乗継制度、ICカードの普及拡大、ICカードによる定期・乗継割引サービス
導入など ほか

平成29年度の取組

□ 公共交通利便性向上検討WG

- ・JR桂川駅前バス総合案内所の開設 **NEW** ・ダイヤ改正に伴う共通案内板の更新
- ・利用促進イベントの実施(らくさいさくら祭)

□ ICカード普及啓発WG(幹事:交通局)

- ・外国人を含む来訪者へのPR活動の実施(ICカードによる鉄道・バスの乗継利用促進) **NEW**
- ・駅等で配布する冊子やチラシを活用したPR活動の実施

□ 外国語案内充実WG(幹事:交通局, 京都バス)

- ・外国人利用者に向けた公共交通案内情報の共通化をめざした取組の継続(更なる充実の検討)
- ・国庫補助を活用し、外国人利用者に向けた「京都の電車・バス」のご利用案内を開始 **NEW**

□ 歩くまち・京都レールきっぷWG(幹事:京阪電鉄)

- ・鉄道事業者5社局と連携した京都市内の鉄道が乗り放題となる企画きっぷを販売
- 歩くまち・京都レールきっぷ(夏版) : 有効期間 平成29年7月1日～平成29年9月30日
- 歩くまち・京都レールきっぷ(冬版) : 有効期間 平成29年12月1日～平成30年3月31日

プロジェクト

No.54 中山間地域における現行のバス路線については、地域の实情(需要)も勘案しつつ、地域の活性化や福祉の視点も踏まえ、持続的な運行維持方策について、地域住民や交通事業者、行政機関等が参画した検討の場を設置

No.55 地域住民の皆様が生活交通の維持に対する意識を高めて頂くような仕組みづくり

No.61 地域特性に応じた交通手段のあり方の検討する場を地域ごとに設置する仕組みづくり

概要

◇右京区京北地域

少子高齢化が急速に進行（小中学生が10年前の3分の2に！バスの利用者は10年前の6割に！）しており、地域のバスを守るための取組を実施している。

◇右京区水尾地域

地域が主体となり、自治会バスを運行している。



◇左京区久多地域

地域最寄りバス停と京都市街地を結ぶバスが減便したため、地域が主体となった自主運行バスを運行している。

◇北区雲ヶ畑地域

地域と市街地を結ぶ唯一のバスが撤退したため地域が主体となって、運送事業者へ委託し、バスを運行している。

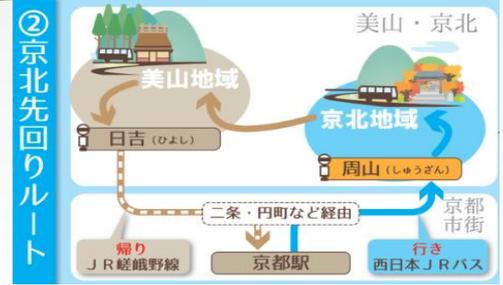
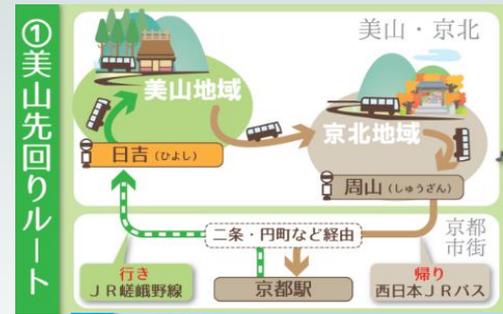
乗合バスについて～各地域の取組②

29年度の取組

- 北区雲ヶ畑地域(雲ヶ畑バス「もくもく号」の運行継続)
雲ヶ畑地域⇔地下鉄北大路駅(1日2便) 運賃:片道500円
- 左京区久多地域(「やまびこ号」の運行継続)
月2回の定期便(4～12月), 臨時便運行
運賃:片道500円(定期便)
- 右京区水尾地域(「水尾自治会バス」の運行継続)
運行区間:水尾地域⇔JR保津峡駅(1日5便)
運賃:片道250円
- 右京区京北地域(「京北ふるさとバス」の運行継続)
- ◇ 社会実験の実施(29年4月～)
 - ・中学生及び登山客等に適した土・日祝日ダイヤを設定
- ◇ 西日本JRバス高雄・京北線の往復企画切符及び
京北一日フリー乗車券を販売(29年4月～)
- ◇ 「美山・京北バス旅ルート」を設定(29年10月～)
 - ・美山地域と京北地域を, 京北ふるさとバスと
南丹市営バスを利用して周遊するルートを新たに設定



雲ヶ畑バス「もくもく号」



美山・京北バス旅ルート

プロジェクト

No.32 駅及び駅周辺の乗継施設の整備・改善(例:JR嵯峨野線 京都・丹波口間新駅, 京都駅八条口駅前広場整備, 阪急電鉄及び京福電気鉄道の西院駅の再整備など)

No.37 旅客施設及び周辺の道路等のバリアフリー化を重点的・一体的に推進

平成29年度の取組

- 西院駅(阪急)の既存の西改札口のバリアフリー化等のための整備や西大路駅(JR西日本)のバリアフリー化整備のための詳細設計を実施



工事中の西院駅西改札口



平成28年度末に完成した西院駅南改札口

プロジェクト

No.44 観光地間周遊に便利な、鉄道・バスでの効率的なルートのご案内情報の充実

No.48 既存の交通検索ソフトやウェブサイトにも、市内のバスダイヤの情報を提供

No.61 地域特性に応じた交通手段のあり方の検討する場を地域ごとに設置する仕組みづくり

概要

□ 平成25年8月30日 運用開始

京都市域を運行するバス・鉄道を対象に、出発地と目的地を入力するだけで、最適な移動経路や運賃、所要時間を検索できる無料の経路検索システム

□ 特徴

- 18のバス・鉄道の乗換検索が可能(寺院・神社、施設名等(約2,500施設)からも検索可能)
- 市バス, 京阪バス, 京阪京都交通バス(一部路線)について、全国初となる、その日の道路状況を加味した到着予測時刻を表示
また、地図上にバスの現在地を表示
- 市バスのみを検索, 市バス・京都バス1日乗車券カード利用範囲内のみを検索が可能
- 英語版にも対応

29年度利用実績

- アプリのランキング(平成30年2月6日現在)
 - AppStore(ナビゲーション) 127位
 - Google Play(旅行・地域) 156位
- 利用状況(平成30年1月末現在)
 - ・ スマートフォンアプリダウンロード数 約44万件
 - うち英語版アプリダウンロード数 約10万件
 - ・ パソコン閲覧数 約4240万ページビュー
 - ・ 携帯電話閲覧数 約140万ページビュー



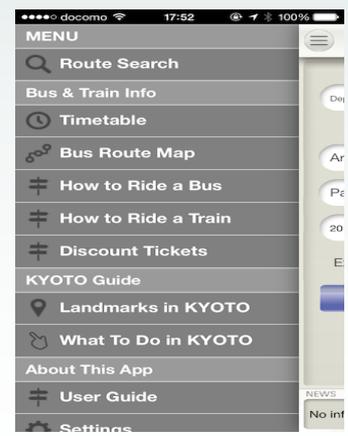
スマートフォン用のアイコン



トップ画面



バスの現在地表示画面



英語版メニュー画面



英語版観光施設情報

2018 3/17 土 市バス 新ダイヤスタート



車両数

808両 → **818両**

走行キロ

86.5千km → **87.3千km**

Point 1 市バスの混雑対策

朝ラッシュ時間帯の増便

- 西大路通を運行する **205** を増便します。(南行・北行とも)

大学への通学輸送の充実

- 立命館大学 (衣笠キャンパス) **快速 Rapid 205** のキャンパス内からの発車便を拡大します。
- 京都産業大学 **北3** を増便します。
- 佛教大学 (紫野キャンパス) **6** の京都駅発着便を拡大します。
- 京都大学・京大病院 京都駅と京都大学・京大病院とを結ぶ「**京大快速**」を新設します。

主要路線の増便

- 京都駅と東山エリアとを結ぶ「**洛バス**」 **急行 Exp. 100** を増便します。
- **86 臨** (楽洛 東山ライナー) を四条河原町経由に経路延長します。
- 京都駅と金閣寺エリアとを結ぶ急行系統 **急行 Exp. 100** を増便します。

Point 2 地域主体のMM[®]と一体となった 路線・ダイヤの充実

継続したMMの取組により、ご利用が増えている地域を運行する系統の増便

- 北区/西賀茂北部 (終野) 地域 **特37**
- 西京区/松陽学区 **69**
- 西京区/福西学区 **特西4**

市バス利用の機運が高まっている地域での新たな試行運行

- 上京区/仁和学区 **52**
- 四条烏丸 ↔ 二条駅 ↔ 仁和学区 (七本松通) ↔ 立命館大学

※MM (モビリティ・マネジメント)
「過度に自動車に頼る状態」から「公共交通などの交通手段を適度に使う状態」へと自発的に転換することを促す、地域や関係者による協働の取組

Point 3 より便利にご利用いただける ダイヤ編成

- 四条界わいから各方面を結ぶ系統の最終便の時刻繰下げ (最大20分)
四条河原町から **10 31 80** 四条烏丸から **13 43**
- 深夜バスの運行日拡大 **MN 17 204 205 特西3**
- 鉄道との乗継利便性向上 **75 南2** の区間増便

2018.3/17 同時実施! 地下鉄ダイヤ改正

8年ぶりとなるダイヤの全面改正を実施します!

- **烏丸線** 朝夕の通勤・通学時間帯に4往復の増便を実施し、混雑を緩和します!
- **東西線** 京阪列車の「京都市役所前駅」止まりのご不便を大幅に改善します!



ダイヤ改正により、乗継ぎの時刻等が変わりますので、余裕をもってお出かけください。

プロジェクト

- No. 42 シンポジウムの開催や公共交通利用促進キャンペーンの実施
- No. 73 シンポジウムの開催や各区のふれあい事業等での周知など各局区との連携
啓発グッズや周知ビラなどを作成し、家庭、学校、職場における継続的な普及・啓発
- No. 81 京都の伝統的な祭りや行事、イベントと連携し、一定期間クルマを使わない
地区を創出

平成29年度の取組

□ 憲章の普及啓発を行ったイベント等

4月	らくさいふれあい祭	10月	京都学生祭典
5月	「鳥羽の藤」鳥羽水環境 保全センター一般公開	11月	京北ふるさとまつり
	「蹴上のつつじ」蹴上 浄水場一般公開		多世代交流・学習型イベ ント (エコまちフェスタ)
9月	伏見ふれあいプラザ	12月	～地下鉄東西線開業20 周年～地下鉄ファン感謝 祭
	京都カーフリーデー2017		



平成29年10月8日
京都学生祭典

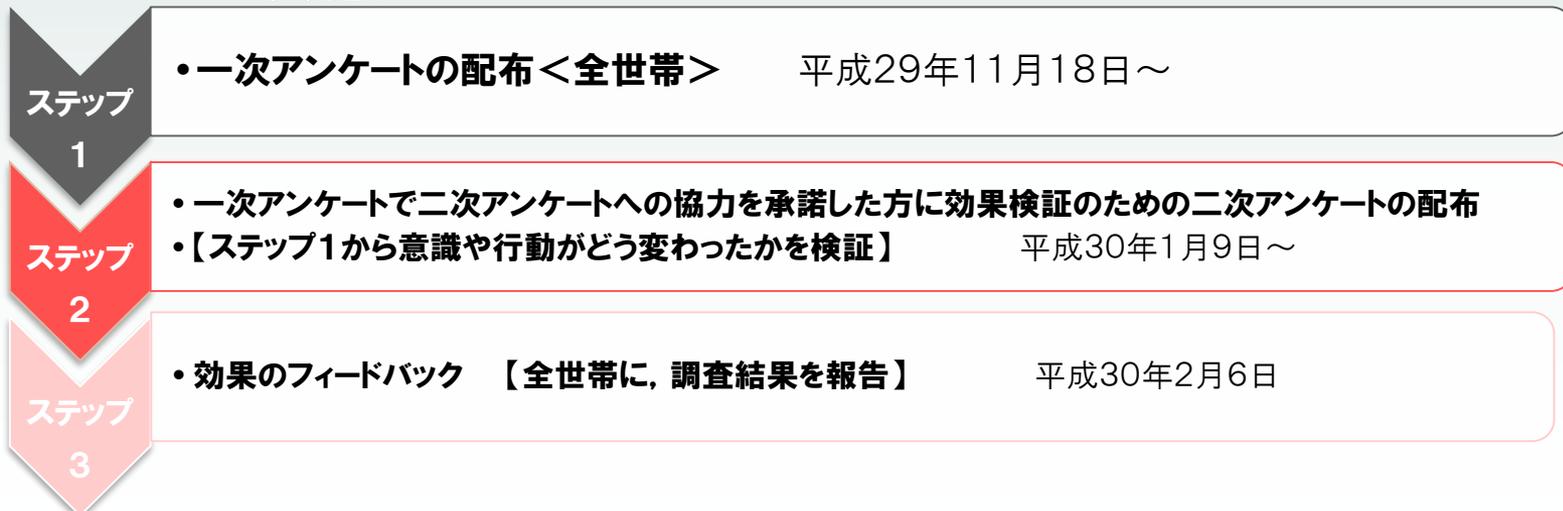
プロジェクト

No. 74 「全域版公共交通情報マップ」の作成，配布
 「地域版公共交通情報マップ」の作成，配布

No. 75 国内初となる全世帯を対象とした広域的かつ個別的なTFP
 (トラベルフィードバックプログラム) を実施

平成29年度の取組

- 2学区(左京区八瀬・上高野学区，西京区桂坂学区)を対象に，地域別の公共交通マップ・時刻表の配布や交通行動の変革を促すコミュニケーション・アンケートを実施。



コミュニケーション・アンケートの実施

□ 実施数値

	左京区(八瀬・上高野学区)	西京区(桂坂学区)	計
一次アンケートの配布数	3,978	3,852	7,830
一次アンケートの回収数	671	875	1,546
一次アンケートの回収率	16.9%	22.7%	19.7%
二次アンケートの配布数	291	328	619
二次アンケートの回収数	189	237	426
二次アンケートの回収率	64.9%	72.3%	68.8%

□ 今回の取組に対するご感想

- ・クルマに頼りすぎずに地球に少しでもやさしくなりたいと感じました。
- ・皆が皆、クルマのない生活は無理だとは思いますが、実際クルマを手放してみると案外、生活できるものだと実感しています。
- ・車利用の認識が変わりました。バスの乗り方が分からなかったのですが、おでかけマップを見て、バスに乗って出かける事ができて良かったです。
- ・無意識に使っていた車の諸経費の大きさに気づかされました。この調査の後、2台使用していた車を1台にする事に決めました。

プロジェクト

No. 43 地域別の公共交通マップの作成及びモビリティ・マネジメントの実施

平成29年度の取組

クルマから公共交通機関等への交通手段の見直しに意欲が高い地域が取り組まれる事業に対して、必要な支援を実施。

【上京区仁和学区】

市バスの利用状況について、学区住民にアンケートを配布。

地域で開催する祭りの会場に、公共交通のPRブースを設置。

【左京区岩倉幡枝学区】

地域内住民、区役所、交通事業者等によるワークショップを開催。

【右京区宕陰地域】

宕陰地域での夏のイベントで、イベントの時間に合わせて臨時バスを運行。

⇒さらに、これまでに歩くまち京都推進室が関わったMMで、バスの増

便などの充実に繋がった事例を紹介するリーフレットを作成予定。

プロジェクト

- No. 82 授業で活用する環境副読本や子ども版の環境家計簿等に交通行動を考える情報を掲載
- No. 83 市内の小学校、中学校を対象に、学校教育活動全体を通じて学習した交通利用に関する学習成果を発表するパネル掲示や学習発表会などの機会を提供

平成29年度の取組

- モビリティ・マネジメント教育の持続的・発展的展開を目指し、学校教員を交えた「歩くまち・京都」学習検討会を開催(3回)
- 学校MMの継続的な実施に向けて、「歩くまち・京都」学習実践校を募集。29年度は5校を選定し、各実践校において公共交通の利用促進の取組を実施
- また、平成30年3月4日(日)には、「歩くまち・京都」学習実践発表会を開催し、各実践校の取組を発表する機会を設ける。

□ 「歩くまち・京都」学習実践校

- 京都市立衣笠小学校
『衣笠のぬくもり, 未来に輝く衣笠の誇り』
- 京都市立岩倉北小学校
『望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」学習の実践』
- 京都市立高倉小学校
『豊かに学び, 表現し, 高め合う子をめざして
～共にめざす 住みやすい街にするために～』
- 京都市立小栗栖宮山小学校
『私たちの住みよい街, 醍醐～ふるさとの街を見直そう～』
- 京都市立醍醐西小学校
『醍醐の いいところ みつけた!』

プロジェクト

- No. 49 京都市全体の公共交通インターネットサイトを構築
(各事業者の提供するホームページへリンク)
- No. 78 ウェブサイトを活用した公共交通の基本情報や動機付け情報等を提供
ウェブサイトを活用したTFPを実施, 各交通事業者のウェブサイトや
ポータルサイト運営事業者の地図サイトと連携
- No. 93 京都の公共交通に関する情報を望む観光客を対象とし, ウェブサイトを
活用して, 公共交通の情報, 動機付け情報等の提供やTFPを実施

平成29年度の取組

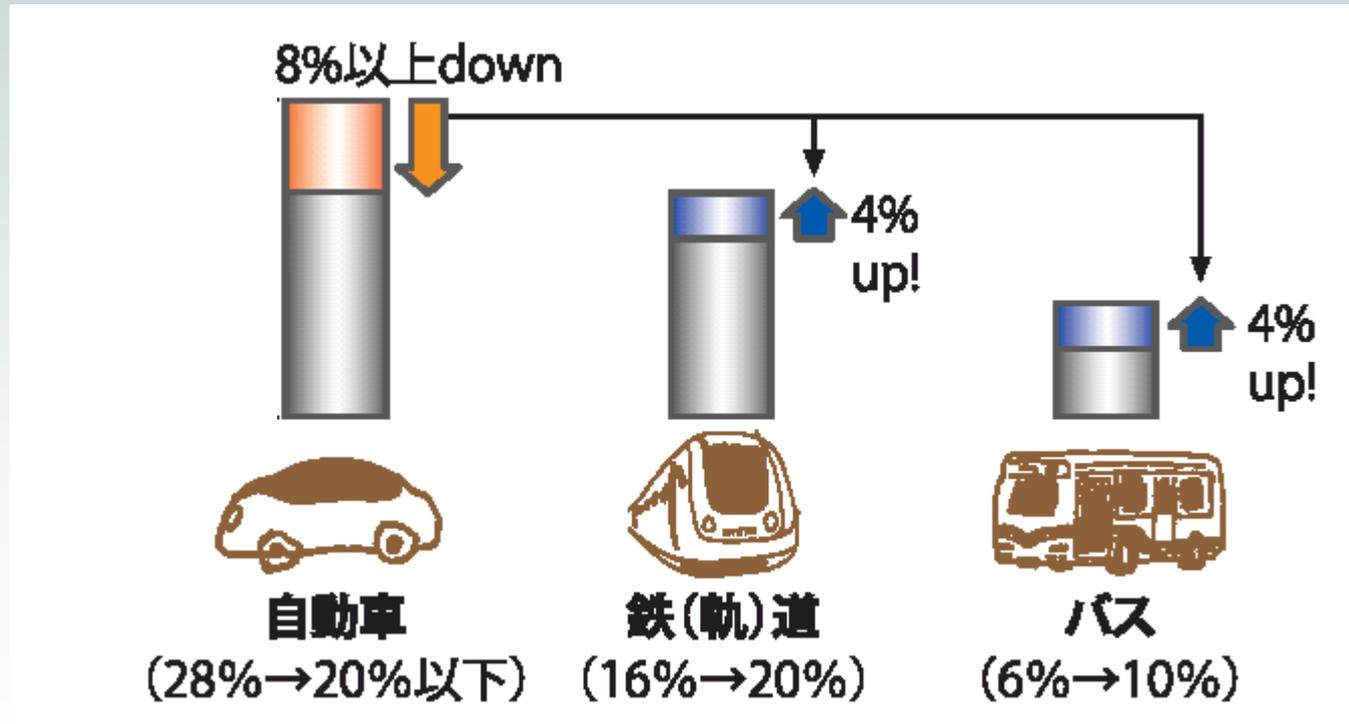
法人	インバウンド対応	・「京都市公共交通ネットワーク会議」の「外国語案内充実ワーキンググループ」と連携し, インバウンド向けの公共交通の乗り方等を案内するHPの作成, ポスター等を作成 ・インバウンド向けの公共交通利用案内冊子(英語・韓国語・中国語(繁体字・簡体字))を更新。
	百貨店	大丸京都店において, 買物客への公共交通利用促進キャンペーンを実施。 京都市交通局若手増客チームと連携し, 大丸京都店においてキャンペーンを実施(予定)。
	駐車場	11月の紅葉シーズンにおける無料駐車場の利用促進チラシを作成・配布。

議題

(3) 「歩くまち・京都」総合交通戦略の 効果検証

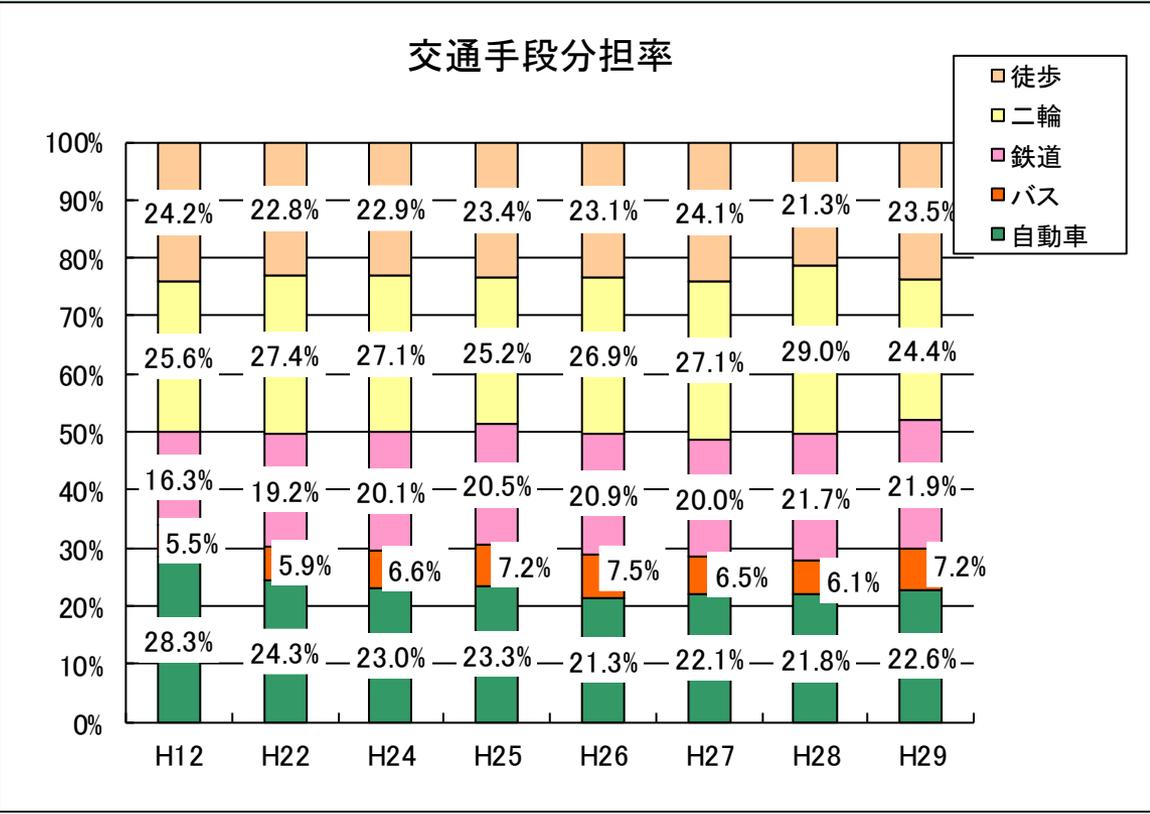
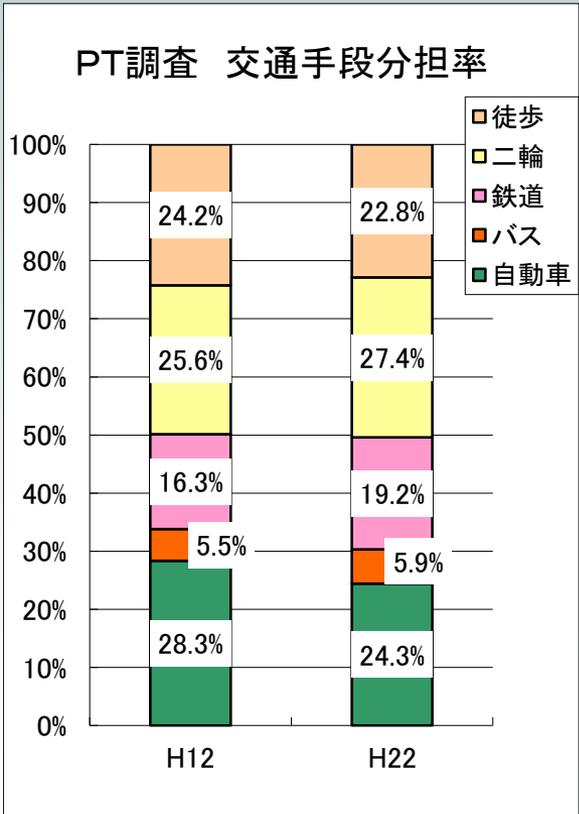
「歩くまち・京都」総合交通戦略の数値目標

非自動車分担率をH12の72%から80%以上にまで上げていく，脱「クルマ中心」社会を目指します。



戦略の数値目標：非自動車分担率

- 非自動車分担率は、目標達成に向けて高水準を維持している。
 (京都市独自調査結果：平成29年度 約77%)

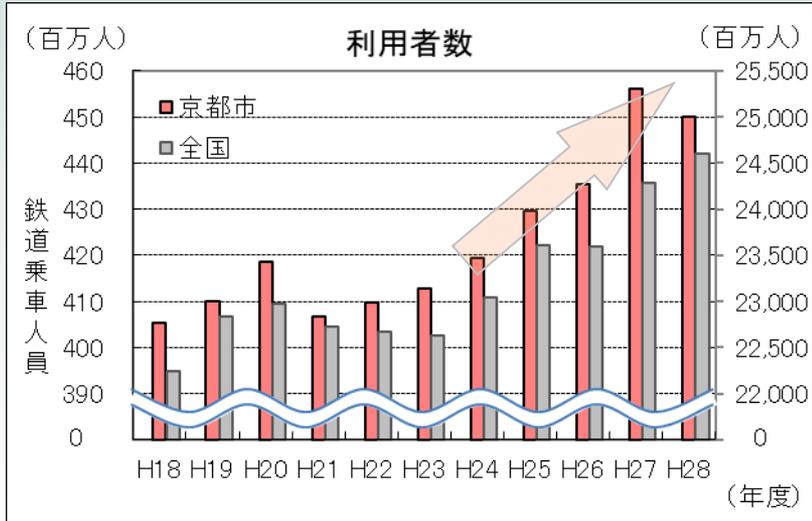


PT調査(京阪神都市圏パーソントリップ調査)は交通計画、防災計画等の基礎資料とすることを目的に、10年毎に実施。H22の対象者数は約70万人(非外出者を含む)

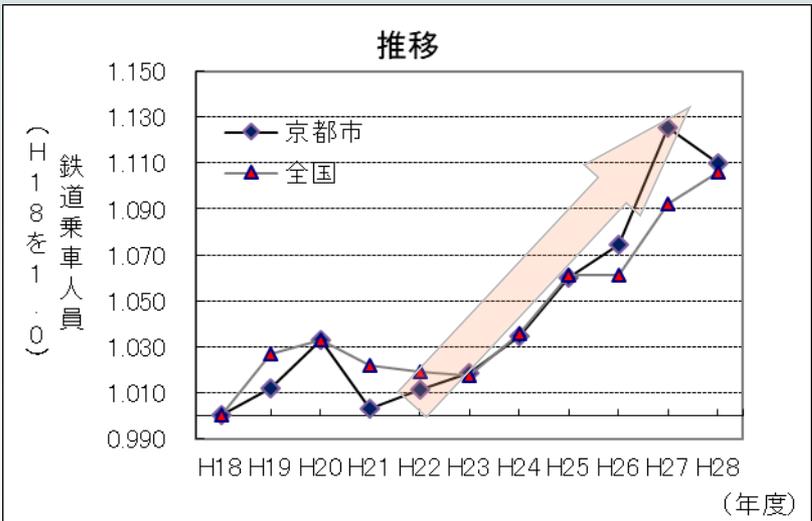
京都市独自調査は、数値目標である京都市の交通手段分担率をモニタリングすることを目的に、京都市民を対象にH24から毎年実施。京都市民以外の京都市の交通はPT調査と同じとしている。対象者数は約1千人(外出者のみ)

鉄道利用者数

- 平成28年度に減少したものの、平成22年度以降、鉄道利用者数は増加傾向にある。
- 平成18年度比で見た増加率においても、全国と比較して高めの水準で推移している。



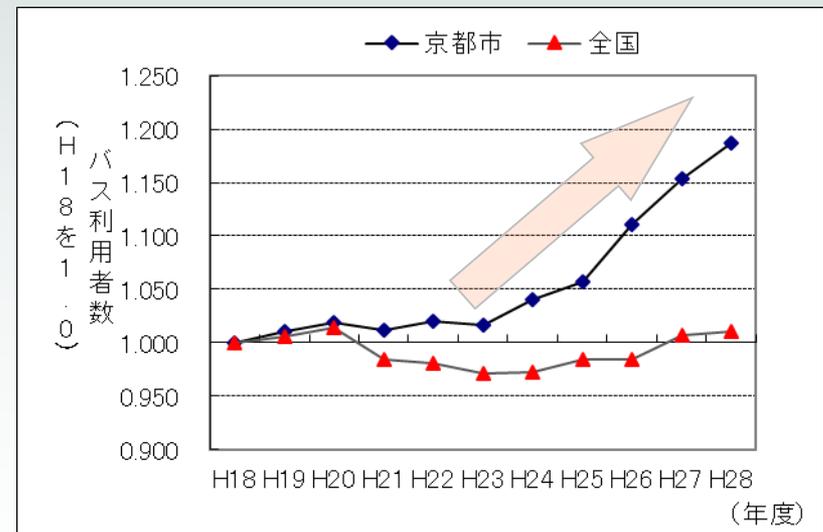
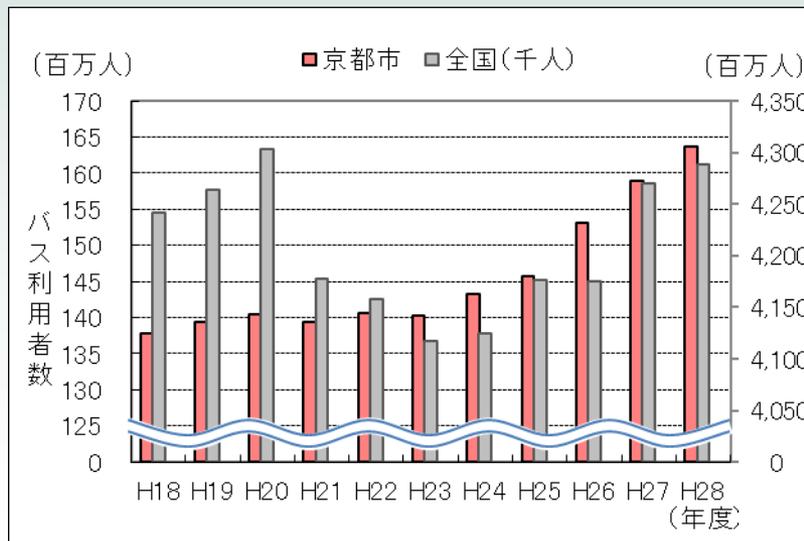
※ 平成28年度に、一部事業者の算定方法に変更があった。



京都市調べ
 <全国> 出典: 鉄道輸送統計年

バス利用者数

- 平成24年度以降, バス利用者数は増加。
- 平成18年度比で見た場合, 全国平均は, ほぼ横ばいだが, 京都市は増加基調にある。

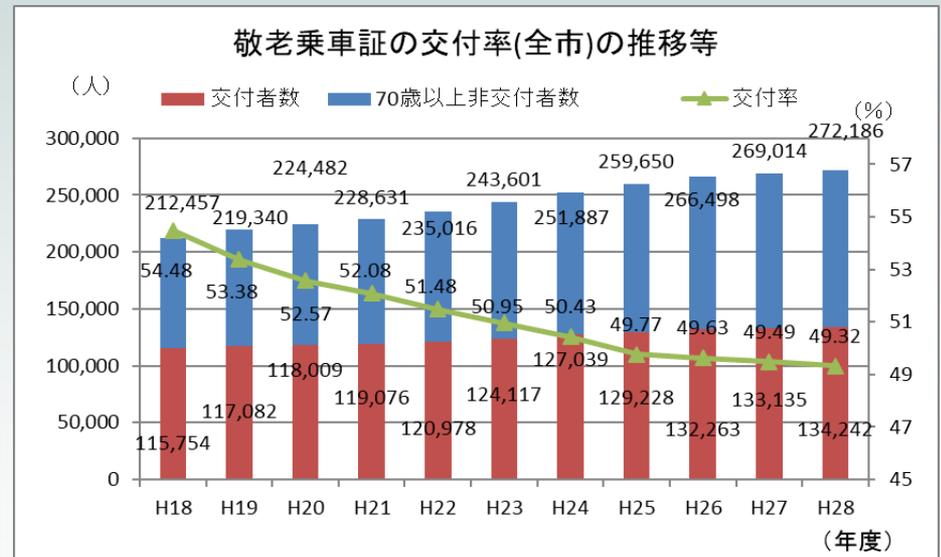
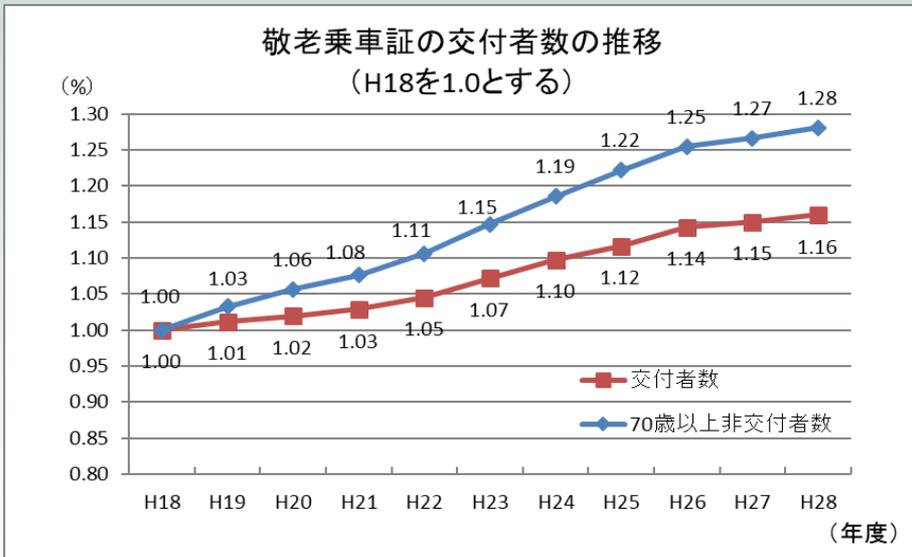


京都市調べ

<全国>出典:国土交通省資料

敬老乗車証の交付状況

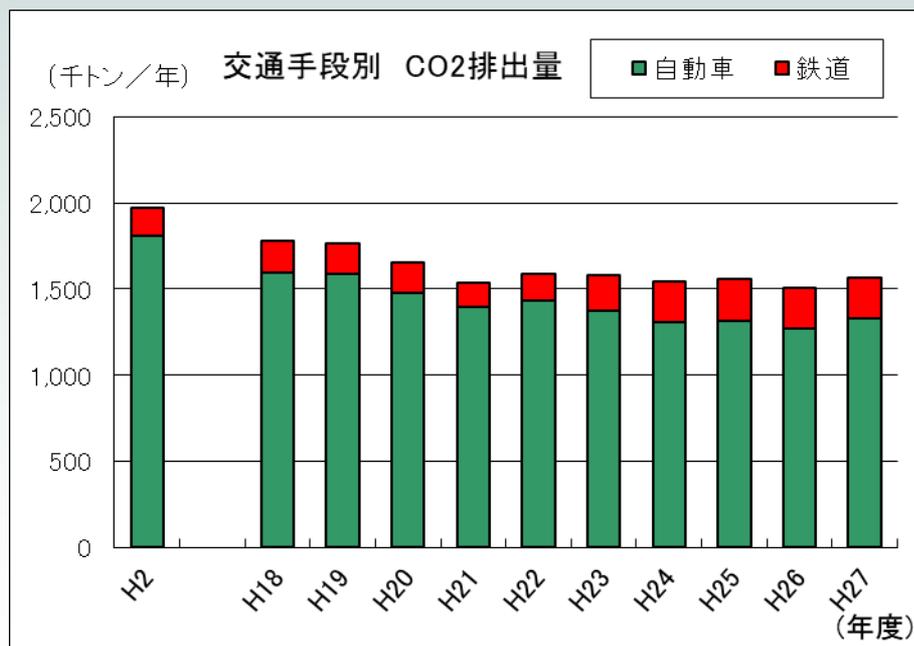
- 敬老乗車証の「交付者数」は増加傾向にあるが、「交付率」は、減少傾向となっている。



資料：H25年 京都市社会福祉審議会「(案)敬老乗車証制度の今後の在り方について(答申)」
京都市「京都市事務事業評価票」

CO2排出量

- DO YOU KYOTO? プロジェクトの周知により、環境にやさしい取組が市民の皆様には広がっていることから、運輸部門のCO2排出量は、平成2年度から約2割減少している。

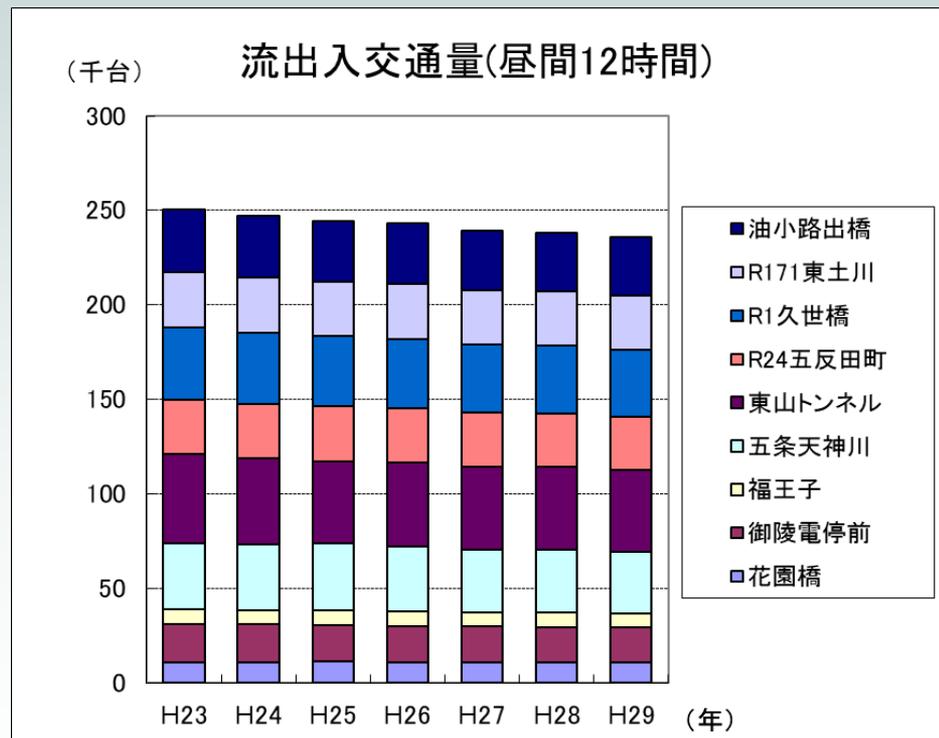


交通手段別CO2排出量

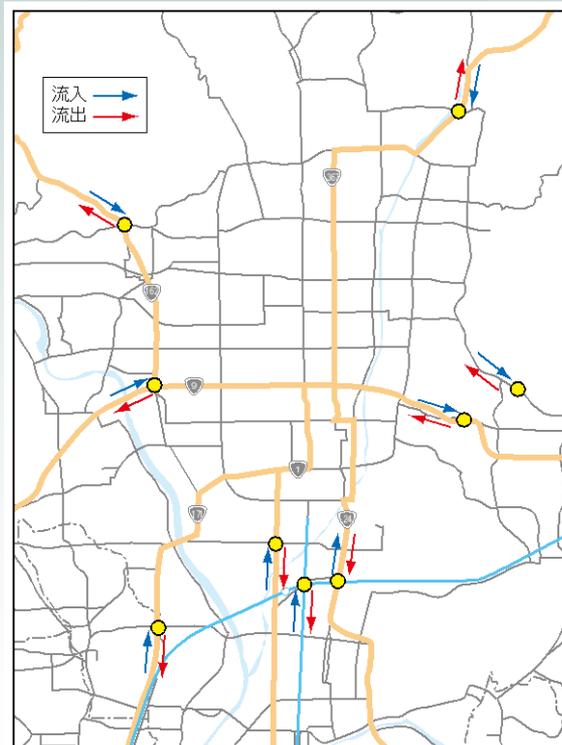
京都市調べ

流出入交通量

□ 市街地への流出入交通量は減少傾向で推移している。



交通量観測箇所



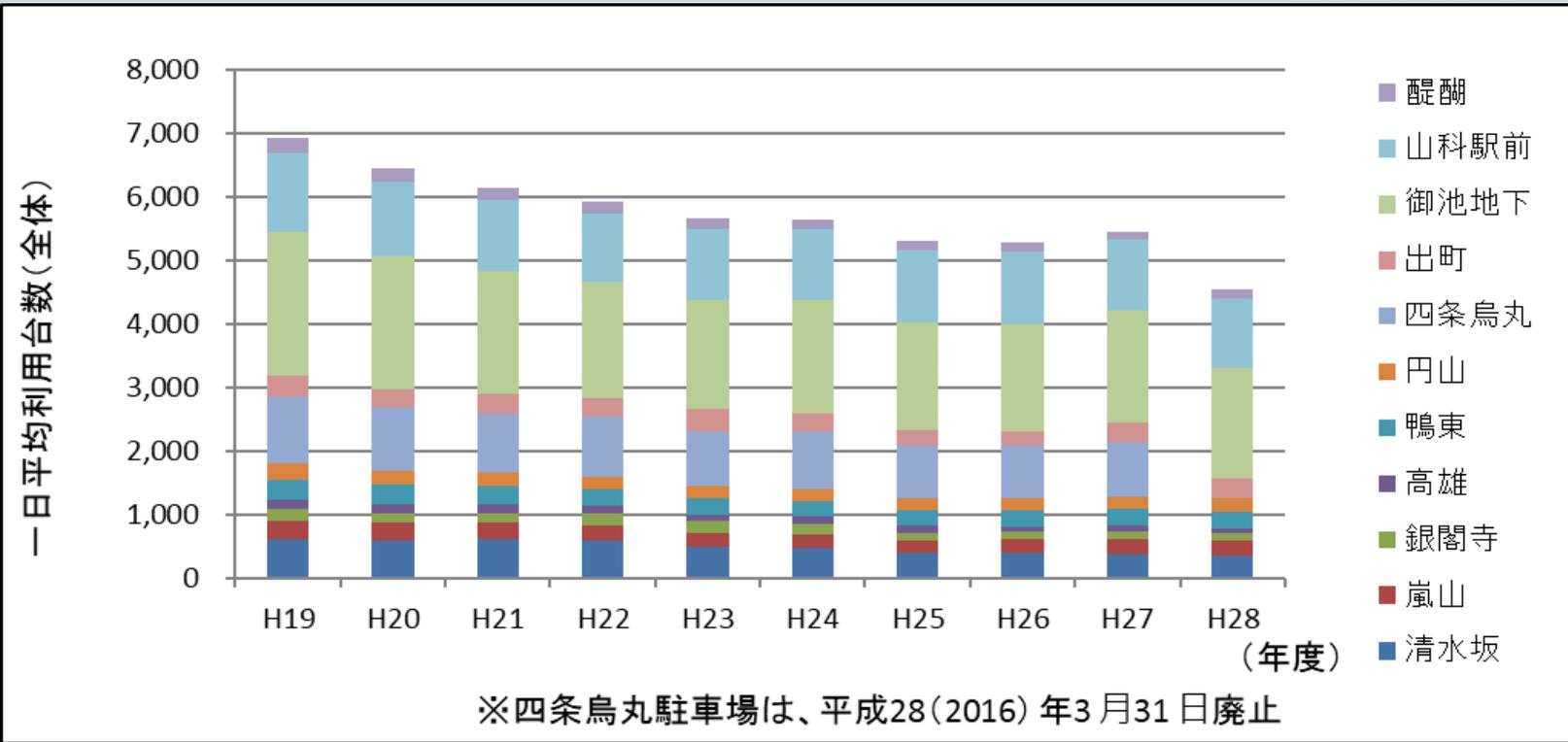
資料:京都府警資料

市営駐車場利用状況

□ 市営駐車場の平均利用台数は、平成19年度以降、減少傾向にある。

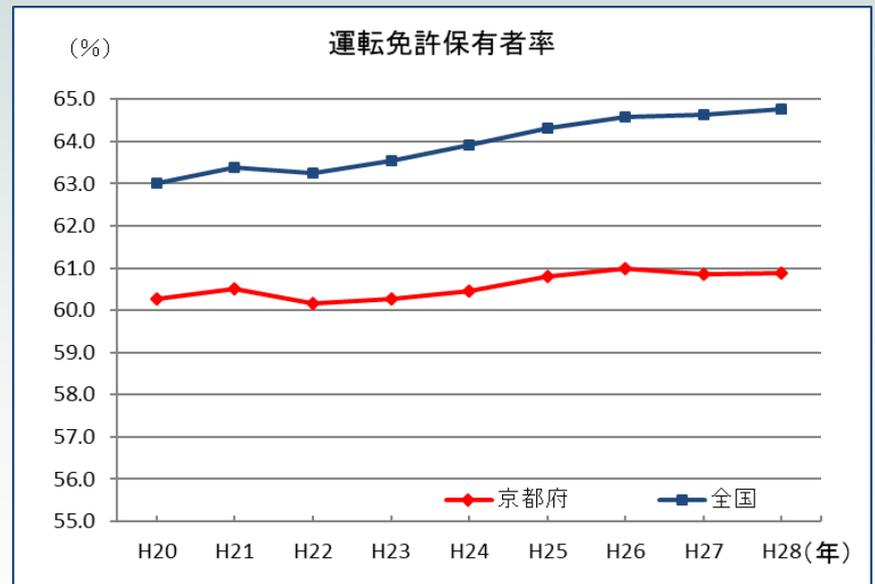
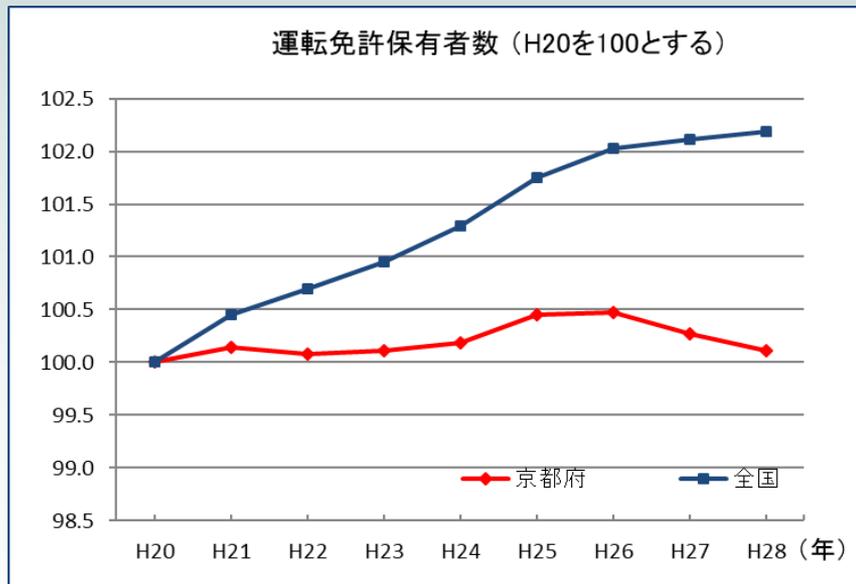
ただし、平成28年度は、四条烏丸駐車場が廃止された影響が大きいと考えられる。

※定期利用台数を含む



免許保有率

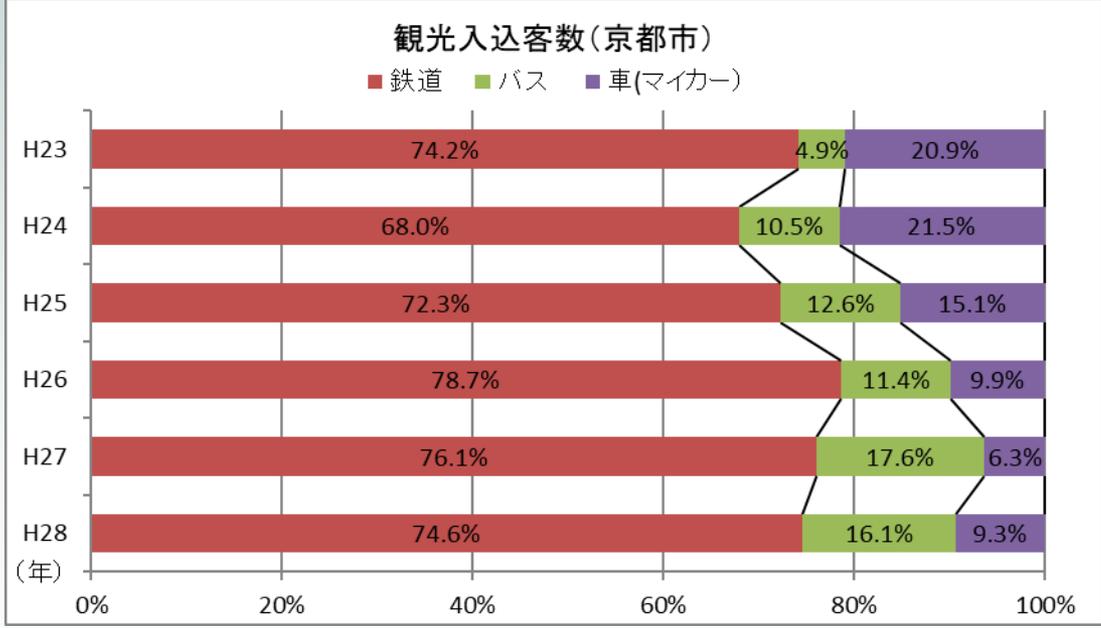
- 「免許保有者数」は、全国的には増加傾向にあるが、京都府では平成27年以降、減少している。
- 「免許保有率」についても、京都府は、全国平均より低い水準で推移している。



資料: 警察庁「運転免許統計」、総務省統計局「人口推計」

観光客の交通手段分担

- 車(マイカー)の比率は、平成24年以降、減少傾向にある。
- 一方、公共交通機関(電車・バス)の比率は、増加傾向にあり、平成26年以降、9割を超えている。

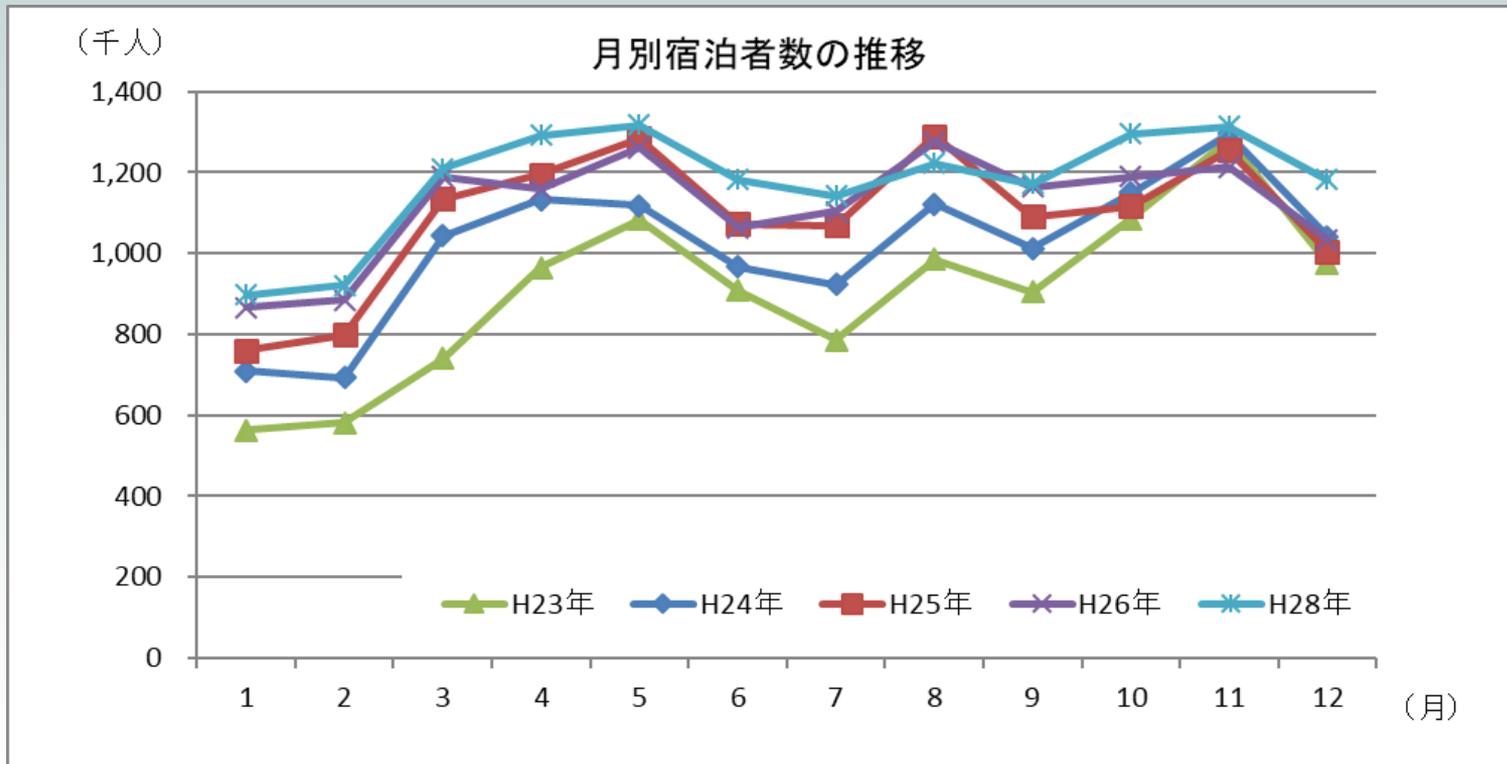


資料:京都観光総合調査

京都市内の主要な鉄道駅、観光駐車場等、全13箇所において、調査時期(年4回)、曜日、時間を概ね合わせたうえで無作為に調査対象者を抽出し、郵送回答の方法で調査を実施(回答数:3,843)

入洛宿泊観光客数

- 入洛宿泊観光客は、平成23年の1,100万人から平成28年には1,415万人まで増加している。
- いわゆる観光シーズン(春・秋)以外の宿泊客数が増加しており、繁閑差が縮小している。



資料:京都観光総合調査

公共交通機関に関する観光客満足度

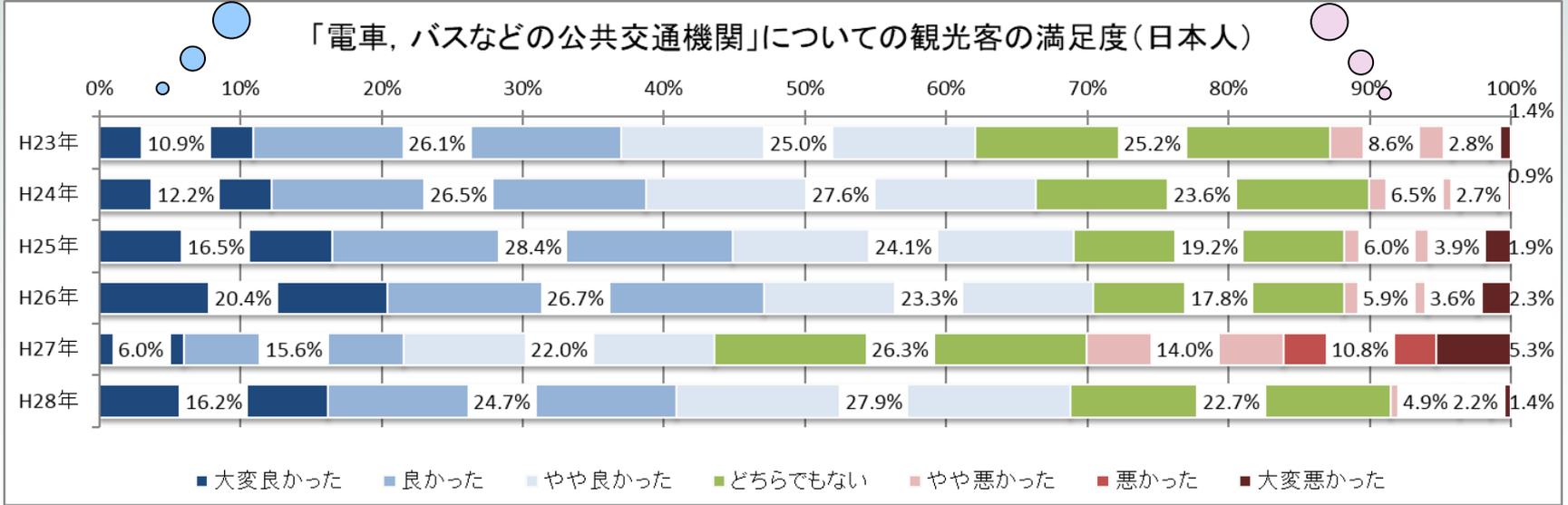
- 平成27年を除き、「良かった」が増加傾向にある。
- 「個別残念度」で「人が多い、混雑」が第1位になっており、理由として「バスが混雑しすぎていて利用を諦めた」ことなどが挙げられている。

満足意見

- ・バスの運転手の案内が丁寧で、親切だった
- ・バスの1日券が便利で使いやすかった
- ・目的地がわかりやすくバスに表示され、利用しやすい

不満意見

- ・バスが混雑しすぎていて利用を諦めた
- ・交通機関が分かりにくい
- ・バスの運転手が親切でなかった



良かった

悪かった

観光案内所や観光標識などの情報提供や案内に関する観光客満足度

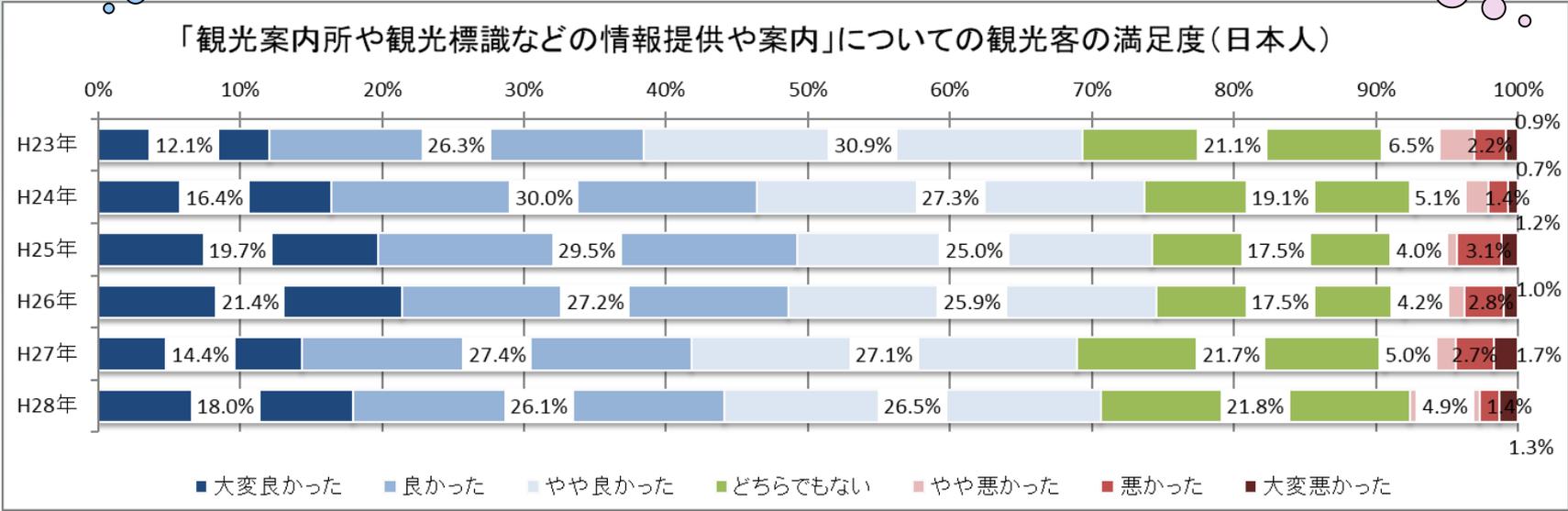
- 観光案内所や観光標識などの情報提供や案内に関する満足度は、「良かった」が70.6%に対し、「悪かった」が7.6%となっており、全体的な評価は高い。

満足意見

・目的地がわかりやすくバスに表示され、利用しやすい

不満意見

・案内板が少なく、分かりにくい
 ・案内標識が少ない
 ・外国語表記が外国人に伝わっていないようだった



良かった

悪かった

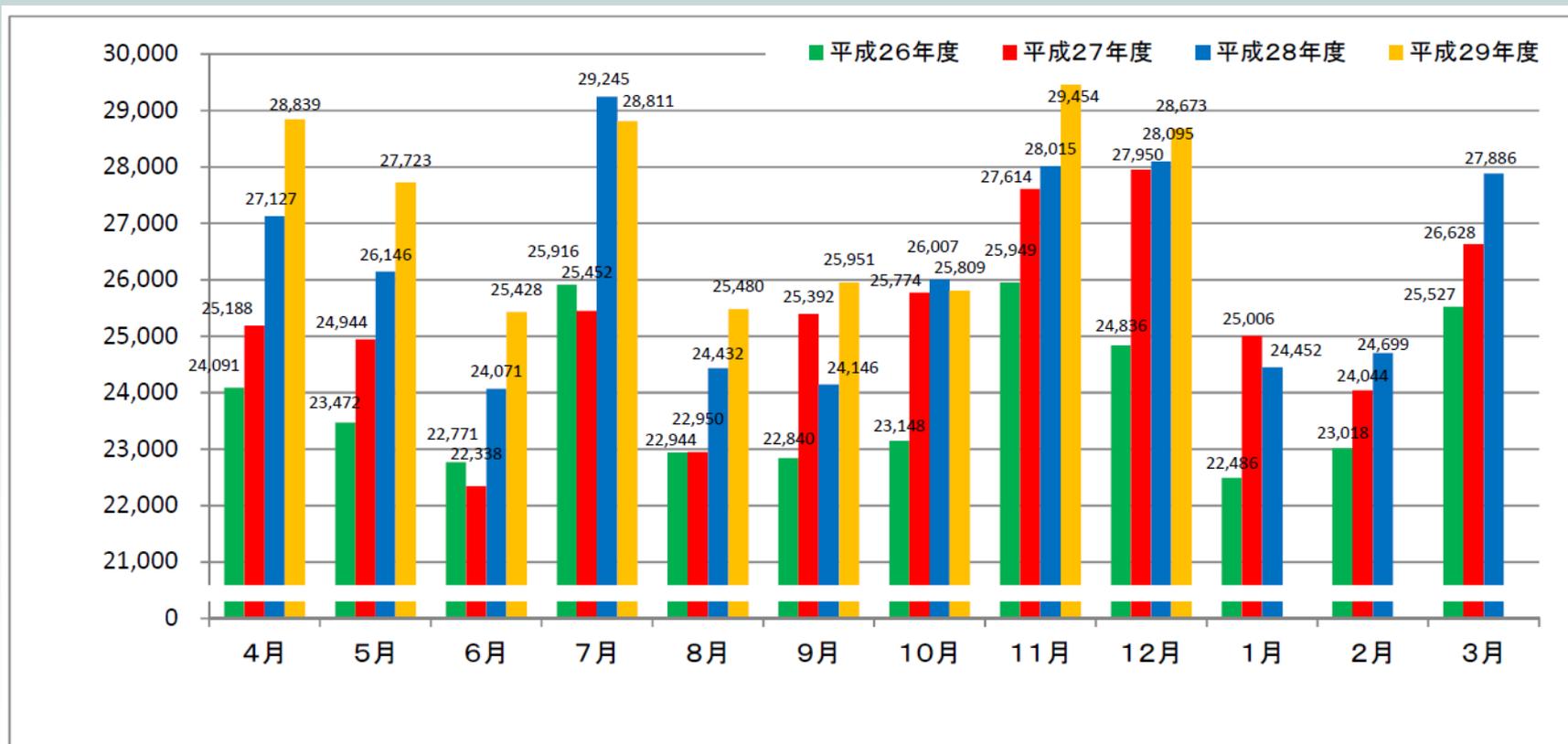
資料:京都観光総合調査

まちなかの歩行者交通量

- 四条通の歩行者数は、整備前と比べて約1割増加しており、その後も増加傾向が継続している。

整備前：平成26年11月～平成27年10月 293,854人

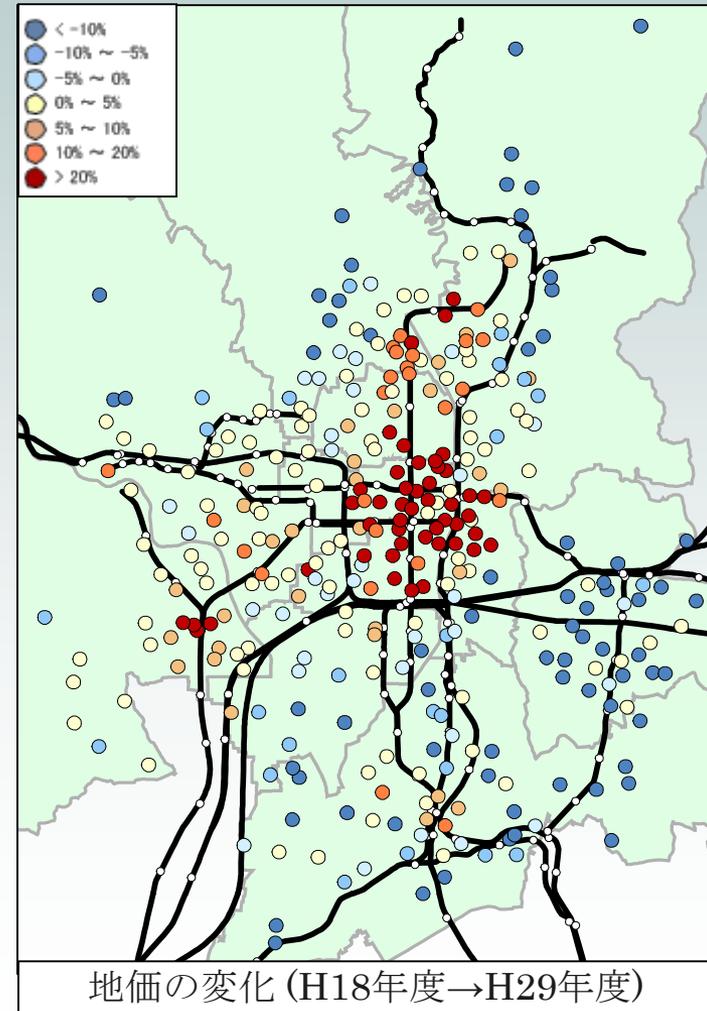
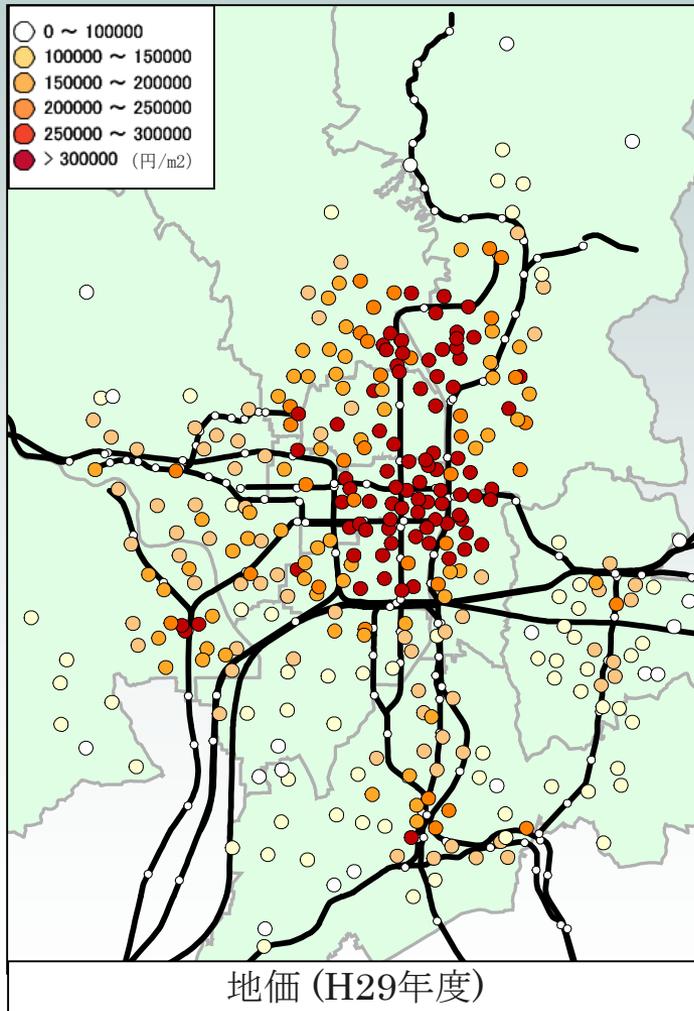
整備後：平成28年11月～平成29年10月 321,188人



四条通の歩行者交通量

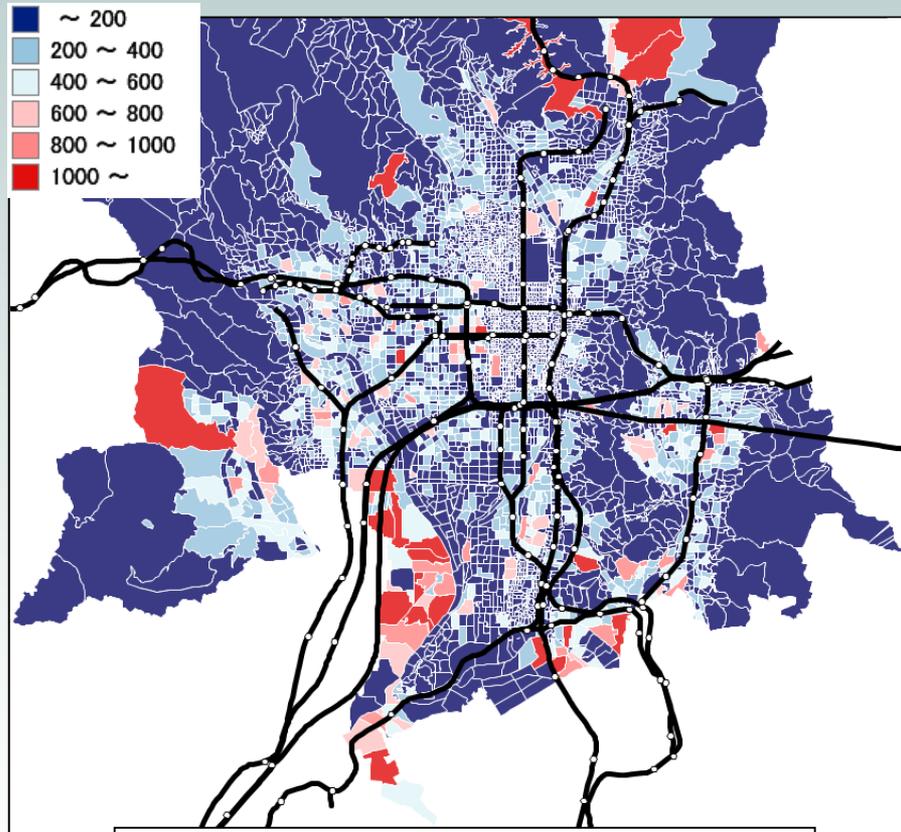
資料：地元商店街からの提供データをもとに京都市で集計

- 都心部の地価が高く、上昇率も高い傾向にある。

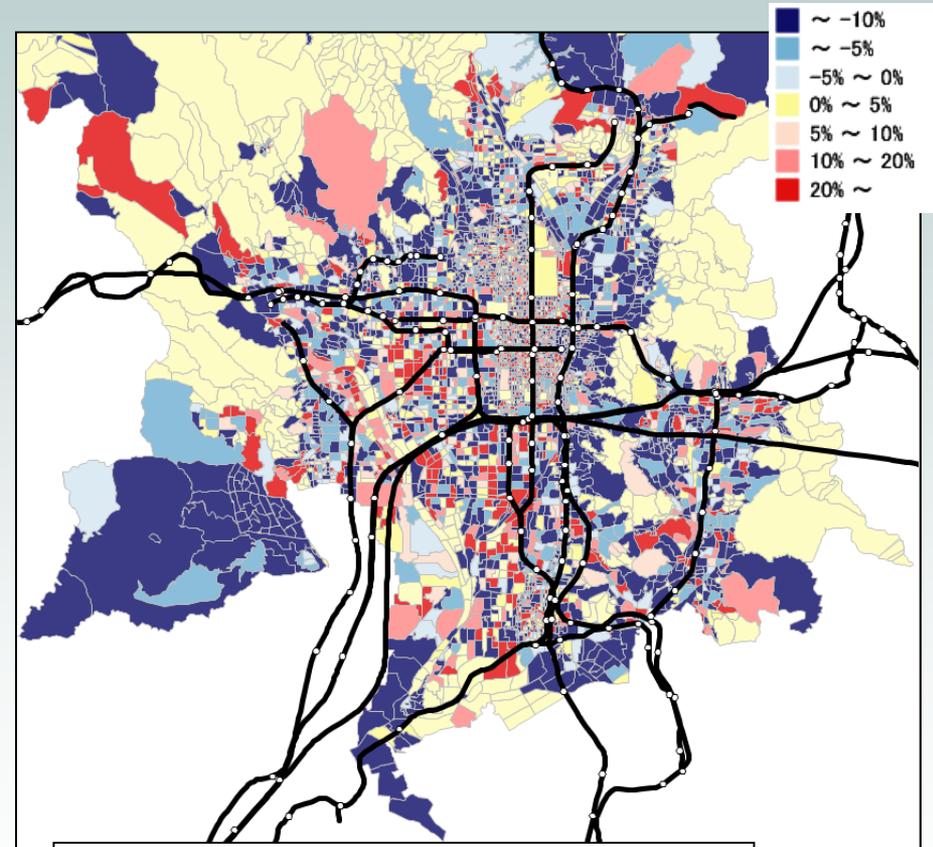


就業人口

- 就業人口は、全体として減少傾向にあるが、岩倉地区や高度集積地区などで増加が認められる。



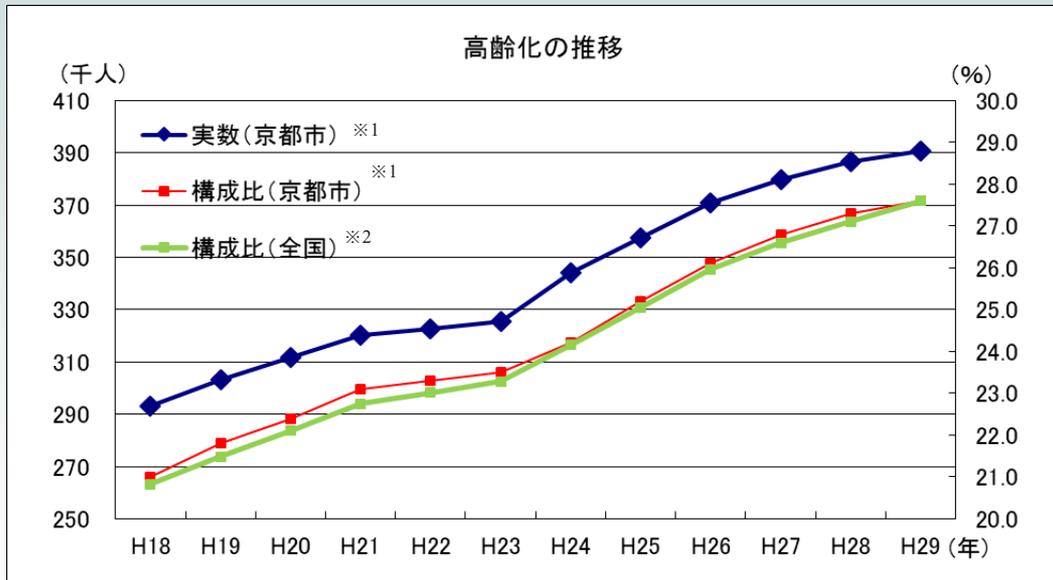
就業人口(H27)



就業人口の変化(H17→H27)

高齢化

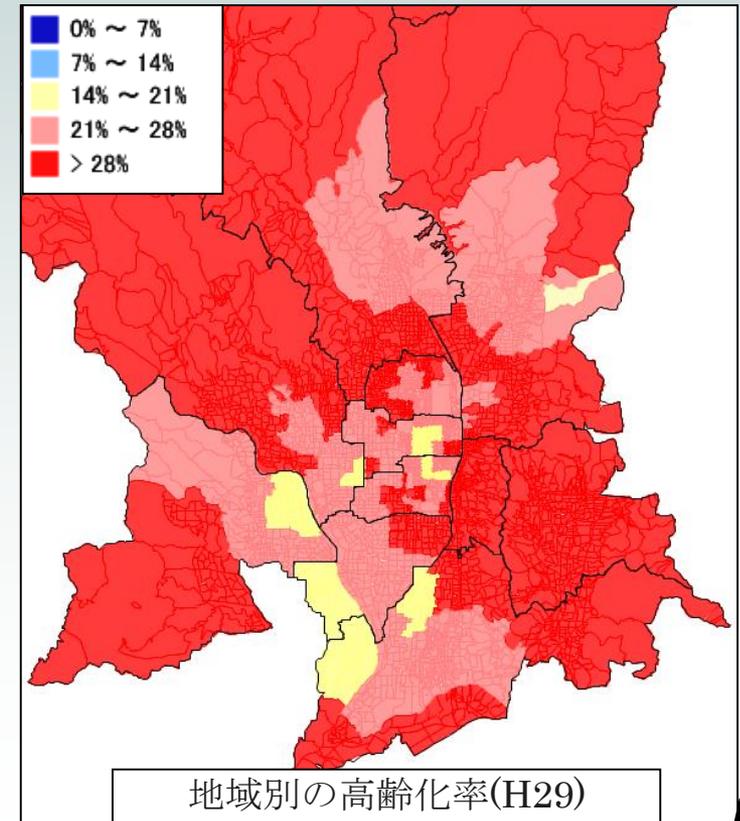
- 全国的に高齢化率(65歳以上の比率)が高まっており、京都市においても、ほぼ同じ傾向で推移している。
- ほとんどの地区で高齢化率20%を超えており、20%未満の少数の地区も14%以上と、全市的に共通する課題となっている。



高齢化率：65歳以上人口の比率

※1:京都市の値は、京都市「住民基本台帳人口」(各年10月1日現在)

※2:全国値のH26年までは、総務省 統計局「人口推計」(各年10月1日現在)、
H27年からは、総務省 統計局「人口推計」(各年12月報7月1日現在(確定値))

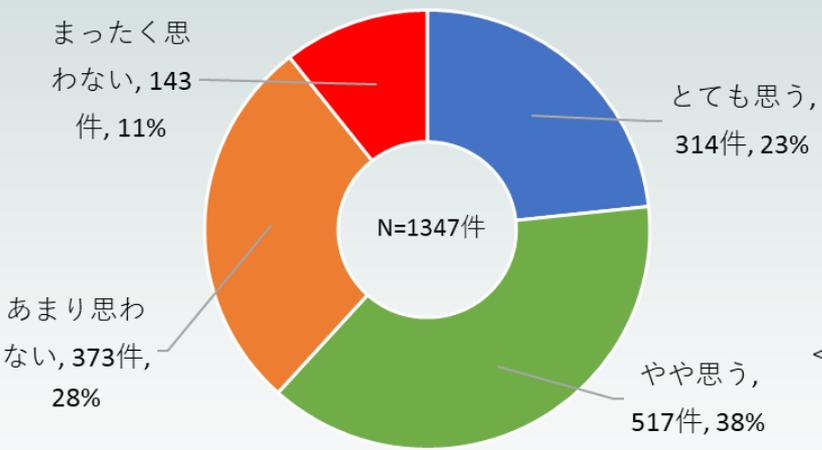


クルマ利用を控える意向について

- 全体の約6割はクルマ利用を控える意向がある。
- クルマ利用を控える意向の強い人は、鉄道・バスの利用頻度が高い

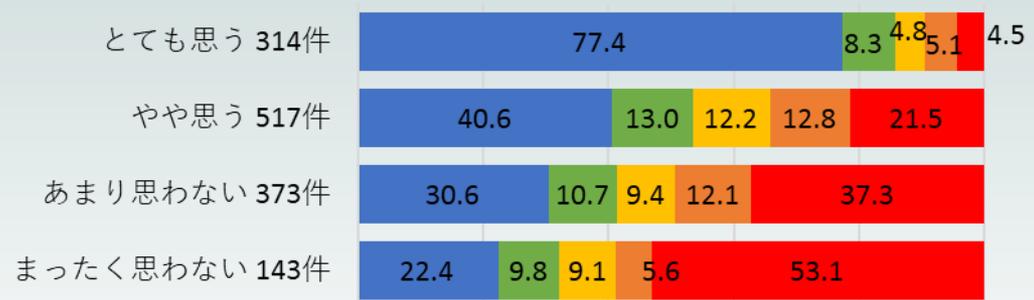
＜クルマ利用の意向と交通手段の利用頻度の関係＞

＜Q. クルマ利用を控えようと思うか＞



＜Q. クルマ利用を控えようと思うか＞

(N=1,347)



＜Q. 交通手段の利用頻度＞

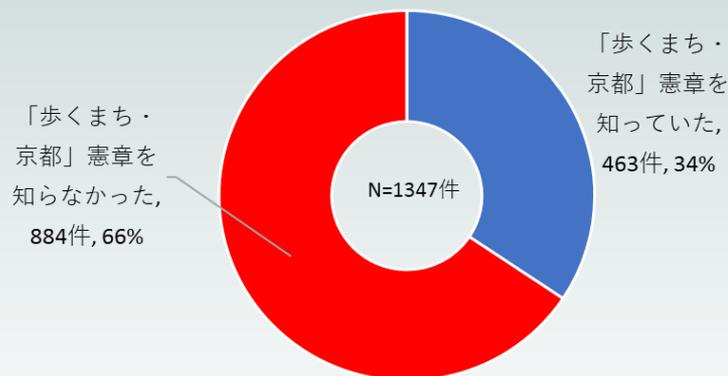
- 鉄道・バスが非常に多い
- 鉄道・バスがやや多い
- 同じくらい
- クルマがやや多い
- クルマが非常に多い

資料:京都市「京都市民を対象とした交通手段分担率調査（平成29年度）」

「歩くまち・京都」憲章の認知度

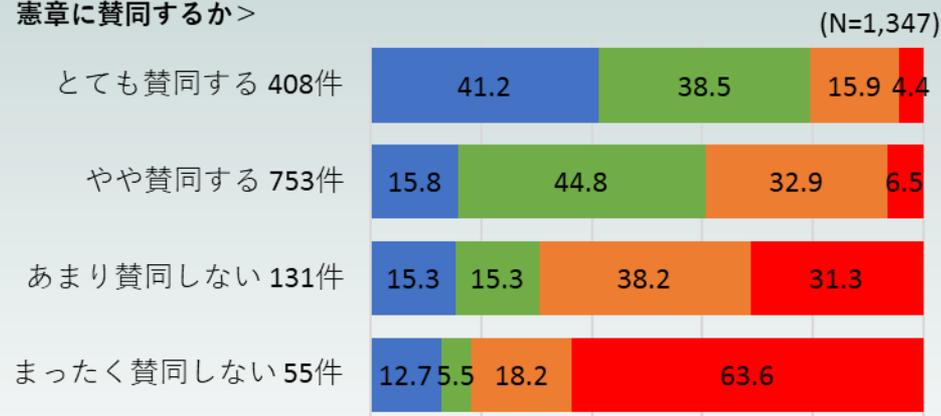
- 「歩くまち・京都」憲章の認知度は約3割，全体の約8割が憲章に賛同
- 憲章に賛同する者ほどクルマ利用を控えようと思う割合が高い

< Q. 「歩くまち・京都」憲章を知っているか >



< 憲章への賛同とクルマ利用を控える意向 >

< Q. 憲章に賛同するか >



< Q. クルマ利用を控えようと思うか > 0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ とても思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ まったく思わない

資料:京都市「京都市民を対象とした交通手段分担率調査（平成29年度）」

「歩くまち」と健康

- メタボまたは生活習慣病「である」者は、鉄道・バスと比較して「クルマが非常に多い」の割合が高い。
- メタボまたは生活習慣病「である」「気になっている」者は、クルマを保有している割合が高い。

<健康への不安と交通手段の利用頻度>

<Q. 健康への不安はあるか>



<Q. 交通手段の利用頻度>

- 鉄道・バスが非常に多い
- 鉄道・バスがやや多い
- 同じくらい
- クルマがやや多い
- クルマが非常に多い

<健康への不安とクルマ保有率>

<Q. 健康への不安はあるか>



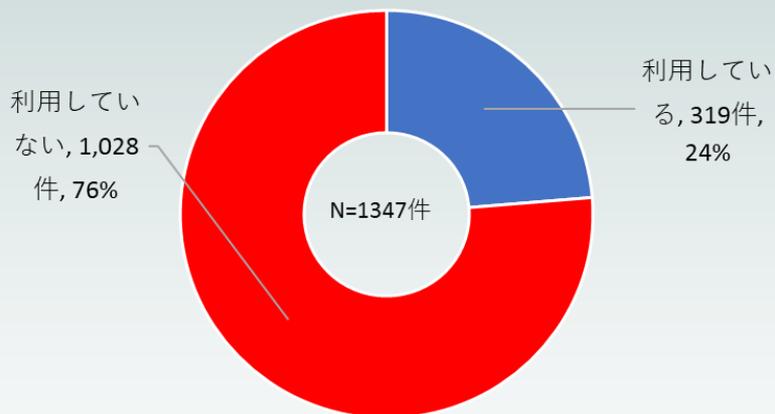
<Q. 自家用車を持っているか>

- 自家用車保有率

万歩計の利用と「歩くまち」

- クルマ利用を控えようと思う者は、万歩計を利用している者の割合が高い

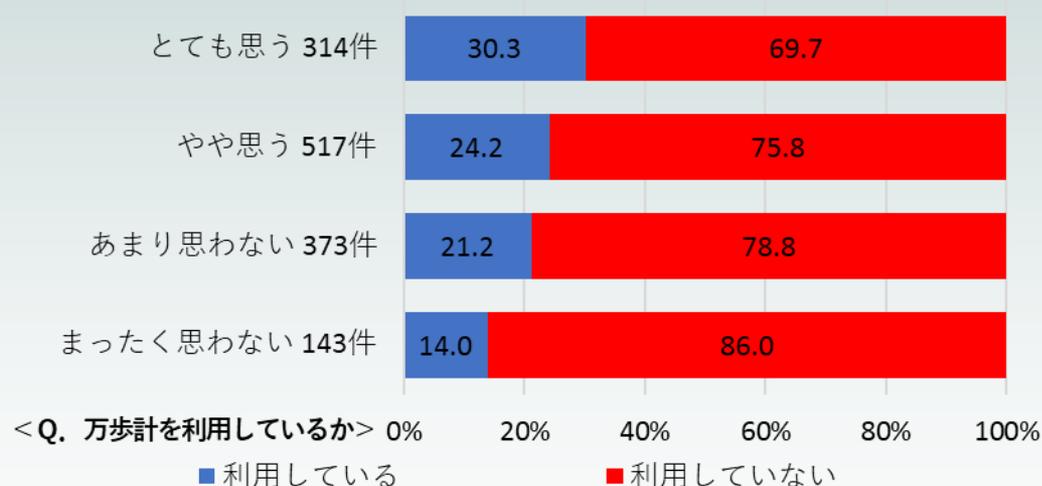
<Q. 万歩計を利用しているか>



<クルマ利用を控える意向と万歩計の利用>

<Q. クルマ利用を控えようと思うか>

(N=1,347)



議題

(4)平成30年度以降の展開について

平成30年度の主な「まちづくり」の展開①

京都における自動運転技術の社会実装に向けた研究

□ 自動運転の社会実装に向けた検討会議

自動運転の活用による市政課題の解決や新たなまちの魅力を生み出す可能性について、テーマを絞って議論を進め、平成31年度に京都における自動運転技術の活用のあり方について、提言を取りまとめる。

□ 自動運転の社会実装を推進するプロジェクト

事業者等と連携し、以下のようなプロジェクトの検討や実証を進める。

- ・ 観光客等の移動需要に柔軟に対応する新たな移動サービス
- ・ 中山間地域やニュータウン等における持続可能な移動サービス

平成30年度の主な「まちづくり」の展開②

安心・安全な東大路歩行空間創出事業

- 東大路通の歩行者の分散を図る新たな取組として、景観に配慮した舗装や照明灯の暖色化により、魅力ある道路を整備し、回遊性を向上
- 東大路通の歩道横断勾配の改善やバス待ち環境の改善に係る工事及び電柱等の移設・集約を行うとともに、周辺道路の魅力を高め回遊性を向上させるため新たに景観に配慮した舗装や照明灯の暖色化の整備を行う。
- 地元住民や関係団体と情報共有を図りながら取組を継続するとともに、自転車利用に係る課題も含めた歩行環境の改善策の検討を進める。

平成30年度の主な「まちづくり」の展開③

ビッグデータ等を活用した交通流動実態調査

- 鉄道・バス等の公共交通や限りある道路空間を効率的に活用し、交通混雑を緩和するため、交通流動の詳細なデータを把握する。
- あらかじめ蓄積されている、携帯電話 地図アプリの利用者に係るGPSデータ(平成29年1月～12月)を活用し、市内全域における交通流動実態(人の流れ)を把握する。※現時点の想定
- 併せて、既存交通の更なる有効活用策や、新たな公共交通システムの導入可能性等について、具体的な検討を進めていく。

平成30年度の主な「既存公共交通」の展開

交通バリアフリーの推進

- 新たに、桃山駅(JR西日本)のバリアフリー化整備や京都駅(JR西日本)の可動式ホーム柵整備に着手
- バリアフリー化事業を実施中の西院駅(阪急)や西大路駅(JR西日本)に加え、新たに桃山駅のバリアフリー化整備や京都駅の可動式ホーム柵整備(ともにJR西日本)に対して、国・京都府と協調して補助金を交付
- 併せて、地元代表や利用者代表等が参画する「連絡会議」において、鳥羽街道駅(京阪)のバリアフリー化の概要を検討

平成30年度の主な「ライフスタイル」の展開

「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発

- 各種印刷物、イベント、啓発グッズ等を活用した「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発
- 例えば、「健康長寿のまち・京都」を推進する冊子や、自転車のマナーを啓発する冊子等に、公共交通を利用するメリット等の記事を掲載することで、「歩くまち・京都」の理念が様々な世代の方に広まるよう努める。

交通行動スタイルの見直しを促す施策

- コミュニケーション・アンケートの実施
 - 地域が取り組むモビリティ・マネジメントへの支援
 - 学校全体で「歩くまち・京都」学習を実践
 - 市内周辺地域等において、住民、交通事業者、行政が一体となったモビリティ・マネジメントを支援し、地域に根ざした公共交通の形成に資するような取組を行う。
- ⇒ NPO法人「歩くまち・京都」フォーラムとの連携を深め、複合的に事業を実施することで、相乗効果を生み、両事業を発展させる。